

杯B蓋145・147の口径は、14.8~15.1cmを測る。口唇部は下方へ屈曲する。杯A152は、口径13.9cm、器高4.2cmを測り、底に深みをもつ杯である。口唇部に浅い匙面がめぐり、底部はヘラケズリ後ナデで調整されている。

平瓶159は、SD6上面X006遺物群のNo10として検出され、口径15.5cm、胴径20.8cmを測る大型品である。肩部中央にある径4cmの円孔を閉塞して乾燥させた後、改めて肩部の片側に口縁部を接合しており、風船技法を採用していると考えられる。

SK1の遺物として、須恵器(杯B蓋141、杯A155)、土師器(椀A156)がある。杯B蓋141は、口径15.8cm、器高3.4cmを測る。ツマミは扁平擬宝珠であり、口唇部は下方へ屈曲する。杯A155は小型法量で口径12.1、器高4.2cmを測る。底部はヘラ切り後ナデで調整されているが、丸く不安定である。

SK4の遺物として、弥生土器(甕163)がある。口縁部は緩やかに外反し、口唇部に間隔をあけた刻目文をもつ。口径13.7、器高22.6cm、胴部中位で最大径14.4cmを測る小型品である。胴部内外面はハケで調整される。

SK6の遺物として、弥生土器(甕166)がある。口縁部は外反し、口唇部に刻目文がめぐる。口径23.2、器高29.8cm、胴部上位で最大径21.7cmを測る。胴部内外面はハケで調整される。底部に焼成後の底部穿孔が認められる。

SK20の遺物として、弥生土器(甕165、壺162)がある。甕165は口縁部は外反し、口唇部に刻目文がめぐる。口径25.8cm、胴部上位で最大径22.6cmを測る。胴部内外面はハケで調整される。壺162は、口縁部は外反し、口唇部に刻目文がめぐる。口径14.5cm、胴部下位で最大径18.0cmを測る小型品である。胴部内外面はハケで調整され、頸部から胴部上位に3段の櫛描文が入り、その間に簾状文、波状文、半裁同心円文が挿入されている。

SK22の遺物として、弥生土器(無頸壺167)がある。無頸壺167は口径9.5cm、器高10.9cm、胴部上位で最大径12.4cmを測る。外面はハケ、内面はナデで調整され、口縁部に2個1組の紐通し用の穿孔が入る。

SD9の遺物として、弥生土器(壺161)がある。壺161は、口径19.4cmを測る中型品である。口縁部は外反して立ち上がり、口唇部は把厚する。調整は摩耗のため不明である。

P30の遺物として、弥生土器(甕164)がある。口縁部は外反し、口径21.4cm、胴部上位で最大径17.8cmを測る。胴部内外面はハケで調整される。胴部上位に櫛描文が2段入り、その間に波状文が入る。

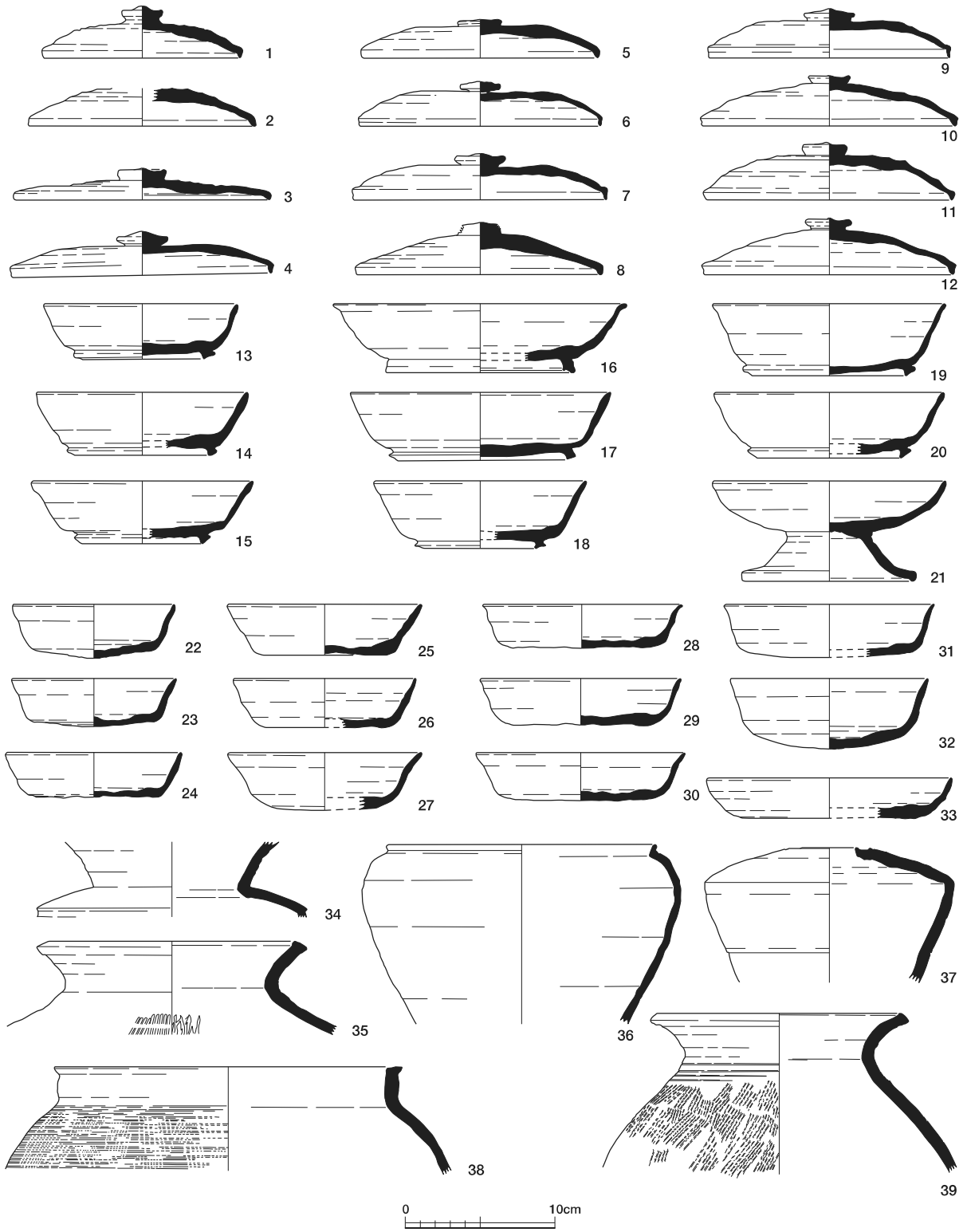
Ⅲ区遺構出土の土器(第38図、図版19・20、第1表)

Ⅲ区遺構出土の土器は、須恵器(椀B149、杯A150・151、土師器甕160)を図化できた。

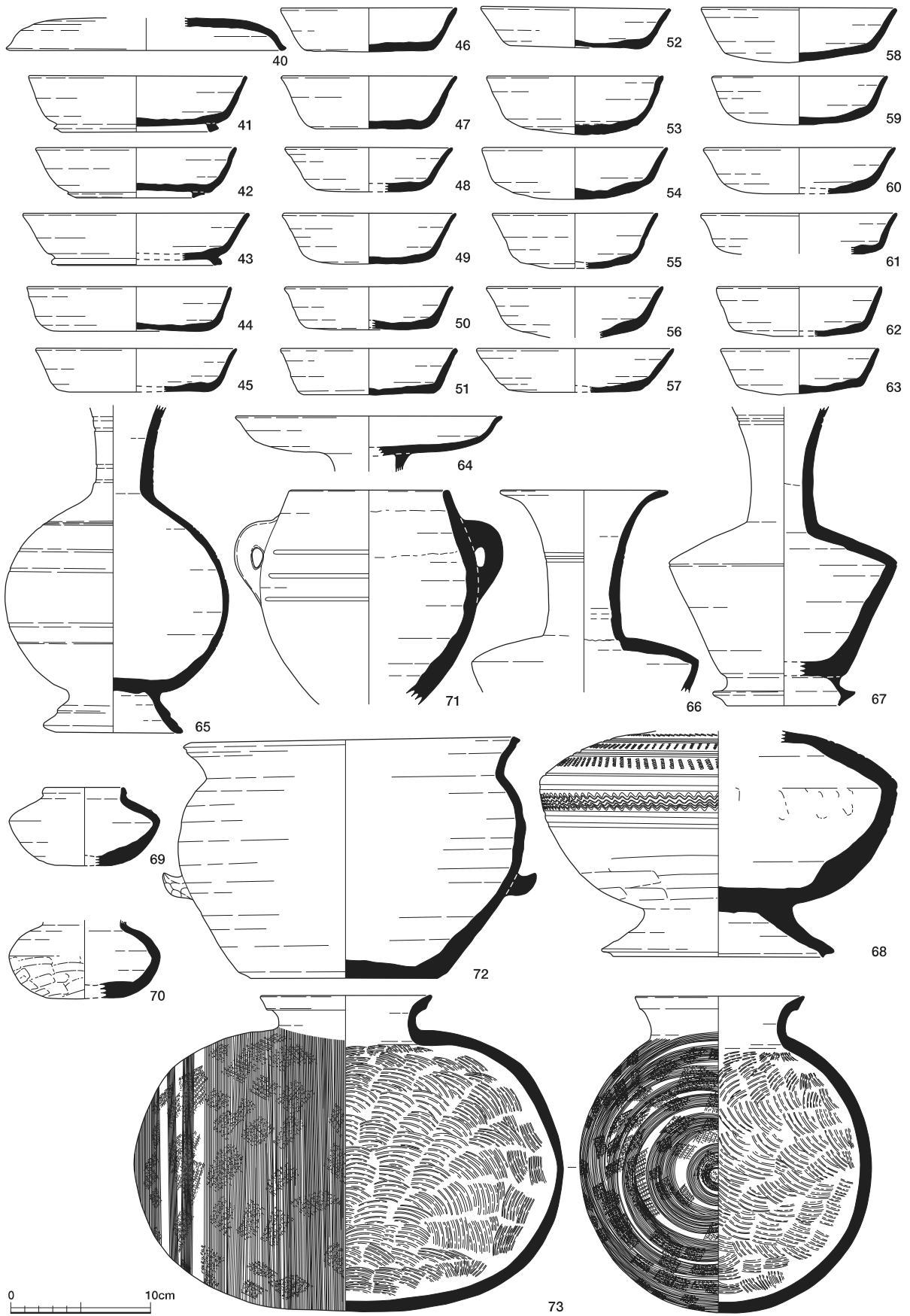
SD5の遺物として、須恵器(杯A150・151)、土師器(甕160)がある。杯A150・151は、口径14.2~14.3cm、器高4.1~4.6cmを測る深みの杯であり、法量が一定している。150の底部は、やや膨らみ安定しない。器面が摩耗し調整は不明である。151は底部はナデで調整されているが、器面は摩耗している。土師器甕160は、口径20.8cm、最大径26.7cmを測る。口縁部はくの字に屈曲し、球形に膨らむ胴部は、内外面ハケで調整される。

SD6・8の遺物として、須恵器(椀B149)がある。椀B149は口径13.0cm、器高4.7cmを測る。口縁部は内湾して立ち上がり、口唇部に浅い匙面をもつ。高台端面は水平であり、安定して接地している。

第1節 土器

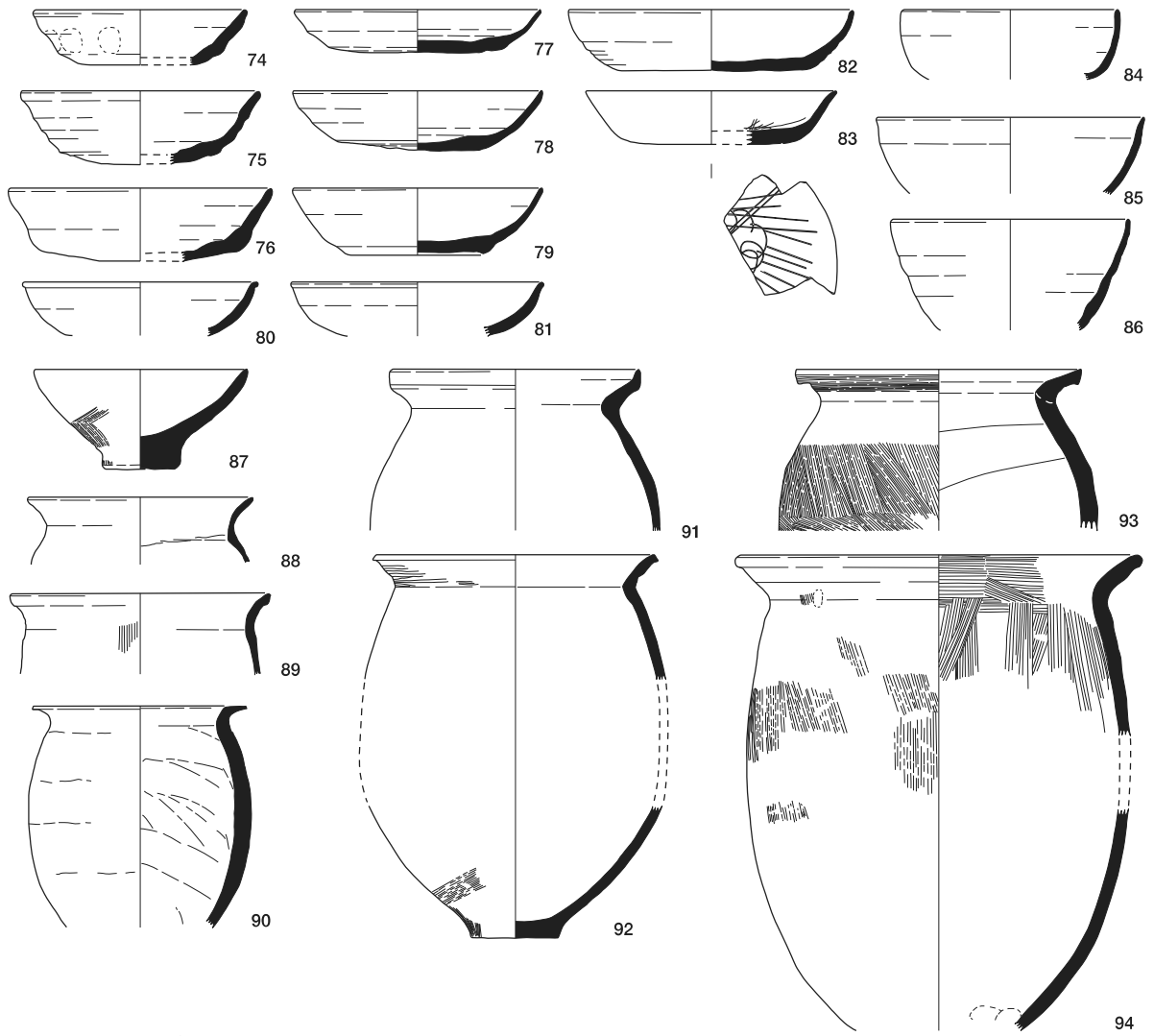


第33图 I区包含層出土 須惠器 (縮尺1:4)

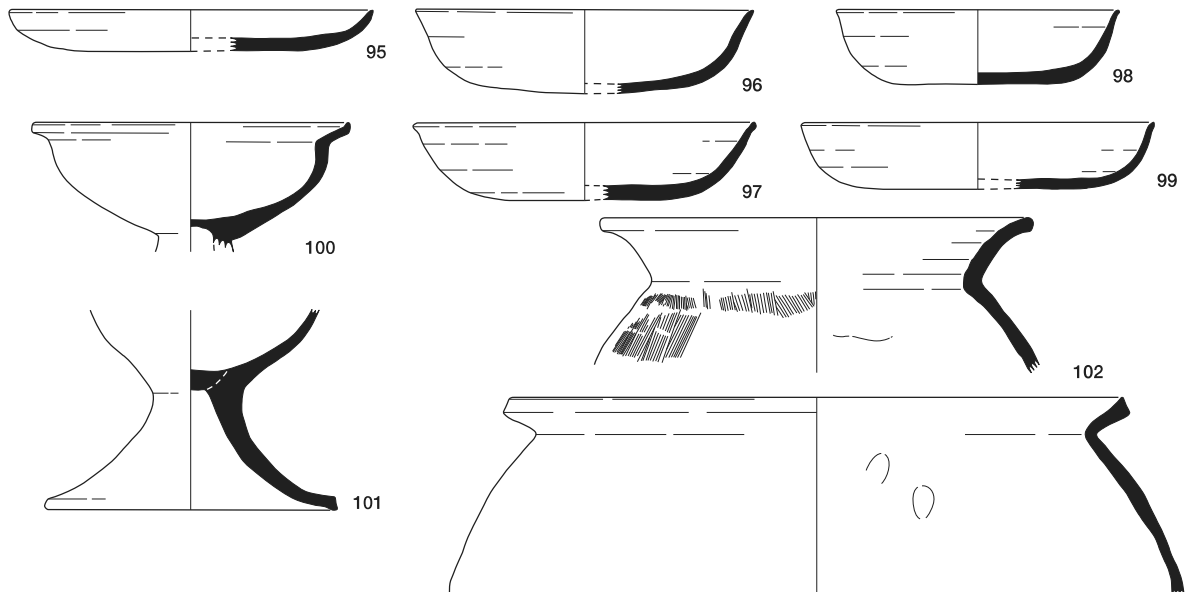


第34图 II·III区包含層出土 須惠器 (縮尺1:4)

第1節 土器

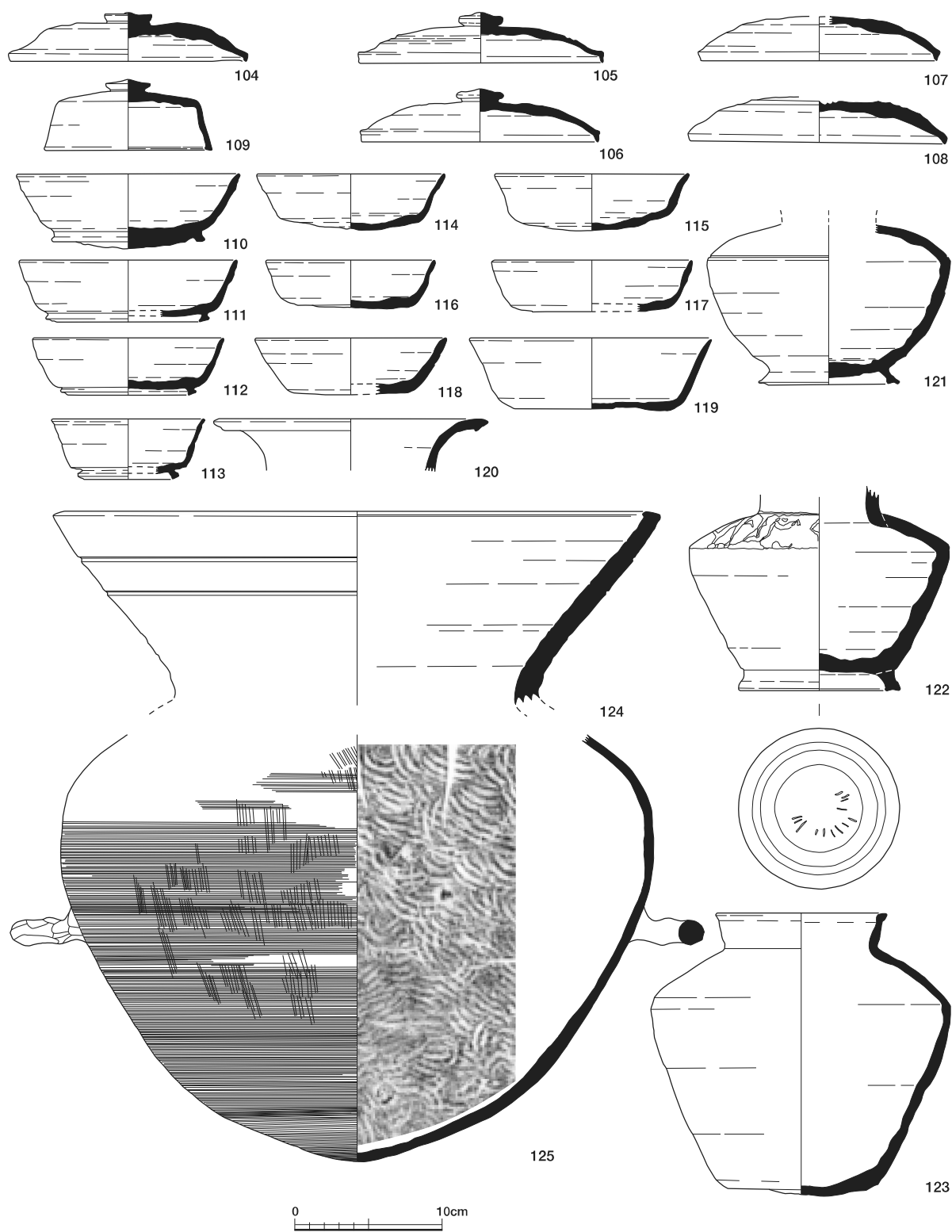


I 区包含層出土土師器



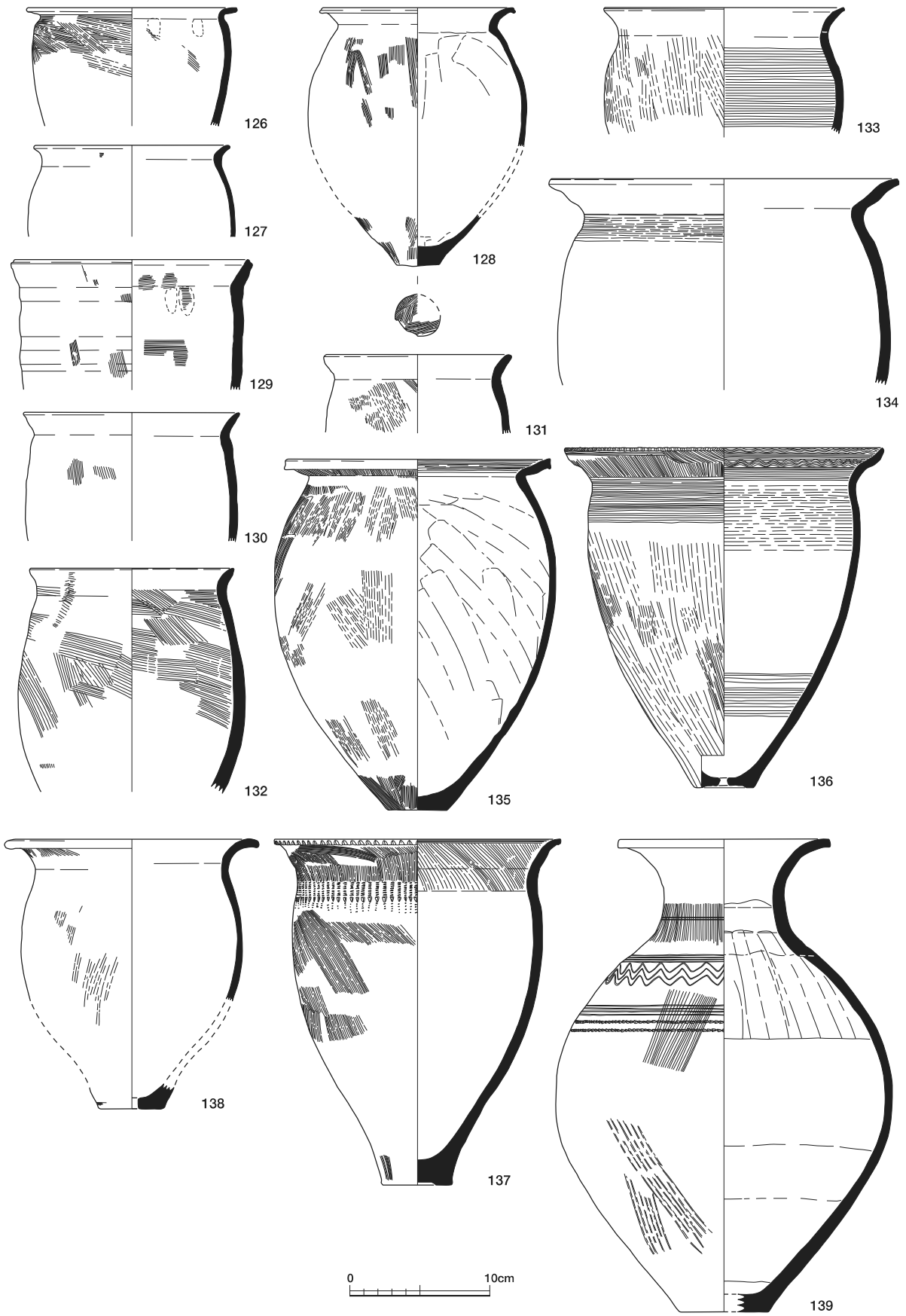
II・III区包含層出土土師器・弥生土器

第35図 I~III区包含層出土 土師器・弥生土器 (縮尺1:4)

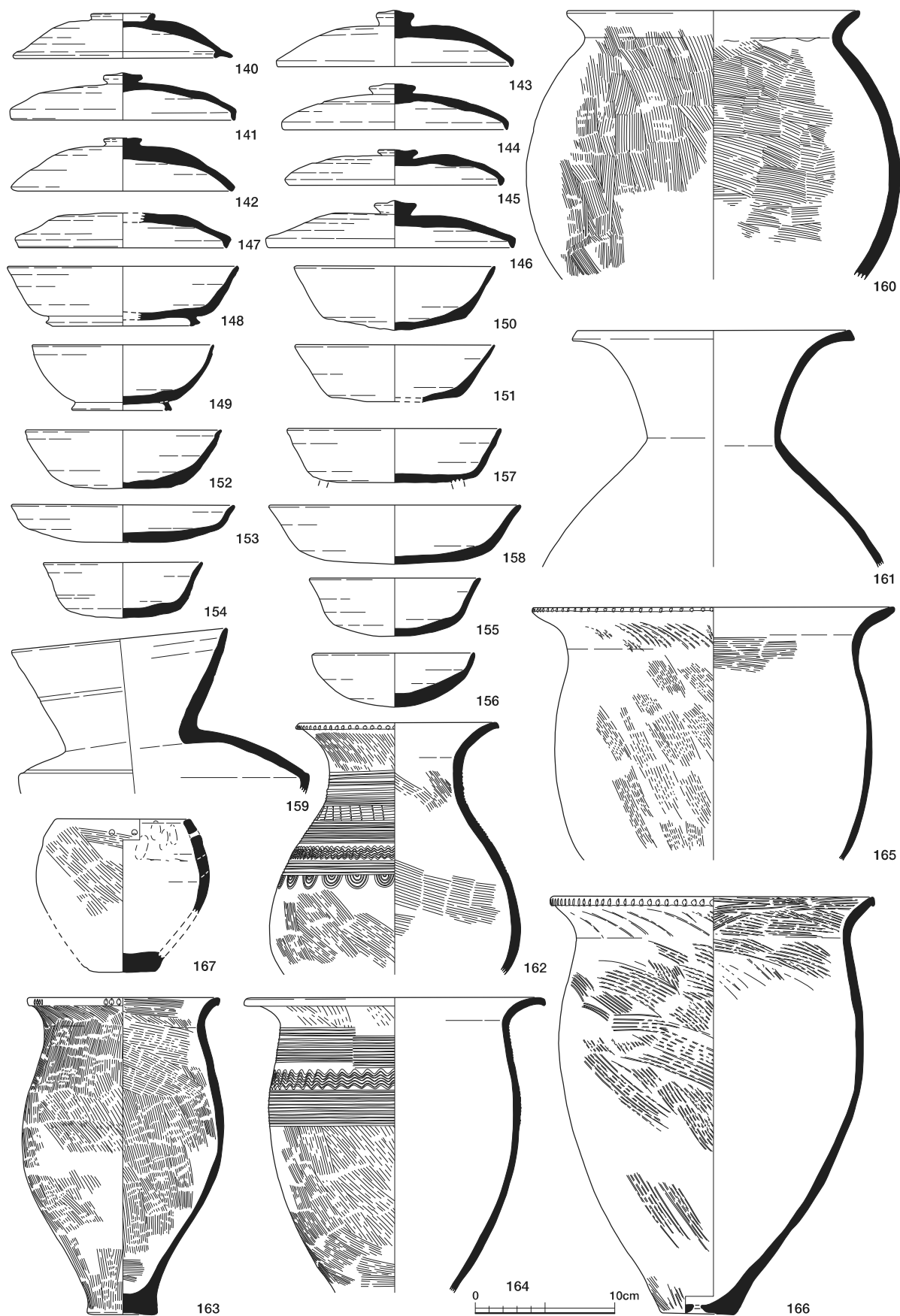


第36図 I区遺構出土 須恵器 (縮尺1:4)

第1節 土器



第37図 I区遺構出土 土師器・弥生土器 (縮尺1:4)



第38図 II・III区遺構出土 須恵器・土師器・弥生土器 (縮尺1:4)

第1節 土器

第2表 土器観察表

I区包含層出土遺物 須臾器 (第33図、図版第14・15)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	天井径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
1	杯B蓋	1/5	13.0	3.5	8.4	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	天井部中央は平坦。ツمامミは扁平擬宝珠。口縁部と天井部の稜線は1条の沈線。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。ツمامミ貼付時のナデ。 内：天井部中央にシッタ痕。回転ナデ。	G8	X	
2	杯B蓋	1/3	15.1	-	9.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	天井部は中央は平坦。口縁部と天井部の稜線は明瞭。口唇部は短く屈曲してやや外方へ開く。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。ツمامミ貼付時のナデ。 内：回転ナデ。	F13・14 E12	X	
3	杯B蓋	1/3	17.4	2.2	12.3	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	天井部は平坦気味であり、扁平な器形。ツمامミは扁平擬宝珠。口縁部と天井部の稜線はやや不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。ツمامミ貼付時のナデ。 内：回転ナデ。天井部中央にシッタ痕。	D15 E15	X	
4	杯B蓋	2/3	18.7	3.2	11.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	天井部中央はやや凹み、扁平な器形。ツمامミは扁平擬宝珠。口縁部と天井部の稜線はやや不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。ツمامミ貼付時のナデ。 内：天井部中央にシッタ痕。回転ナデ。	B9 B10	X	自然釉付着
5	杯B蓋	2/3	15.7	2.2	9.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	天井部は平坦。ツمامミはボタン状擬宝珠。口縁部はやや丸みをもつ、天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。ツمامミ貼付時のナデ。 内：回転ナデ。天井部中央にシッタ痕。	C14 D14	X	
6	杯B蓋	2/3	16.0	3.1	8.5	極砂粒 精緻	暗灰色	良好	天井部は平坦であり、ツمامミは扁平擬宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。ツمامミ貼付時のナデ。 内：回転ナデ。天井部中央にシッタ痕。	E11 E17	X	
7	杯B蓋	1/3	16.8	3.1	9.0	極砂粒 精緻	青灰色	良好	天井部中央はやや凹み、扁平な器形。ツمامミは扁平擬宝珠。口縁部と天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後ナデ。ツمامミ貼付時のナデ。 内：天井部にシッタ痕、回転ナデ。	D20	X	
8	杯B蓋	1/3	16.3	3.5	6.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	天井部から口縁部まで直線的に伸びる。ツمامミは欠損した扁平擬宝珠。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：回転ナデ。ツمامミ貼付時のナデ。 内：天井部にシッタ痕。回転ナデ。	B10 B11	X	歪みあり
9	杯B蓋	1/2	15.4	3.7	9.0	極砂粒 精緻	青灰色	良好	天井部は平坦であり、ツمامミは扁平擬宝珠。器高は高い。口縁部は直線的に開く。天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後ナデ。 内：天井部にシッタ痕、ナデツケ。回転ナデ。	F13	X	
10	杯B蓋	1/2	16.8	3.4	9.7	微砂粒 白色粒子 精緻	青灰色	良好	天井部から口縁部までやや直線的に伸びる。ツمامミは扁平擬宝珠。器高はやや高い。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後ヘラケズリ。 内：天井部にシッタ痕、回転ナデ。	D11 E11	X	
11	杯B蓋	1/3	16.3	3.9	10.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰褐色	良好	天井部は平坦気味であり、ツمامミは扁平擬宝珠。器高は高い。口縁部は直線的に開く。天井部の稜線は明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後ヘラケズリ。 内：天井部にシッタ痕、回転ナデ。	E4	X	歪み
12	杯B蓋	1/1	16.6	3.9	8.3	極砂粒 精緻	暗灰色	良好	天井部から口縁部までやや直線的に伸びる。ツمامミは扁平擬宝珠。器高はやや高い。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ナデ。 内：天井部にナデツケ。回転ナデ。	F18	X	端正なつくり
No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
13	杯B	2/3	13.0	3.7	9.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰黑色	良好	口縁部はやや丸みをもつて外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ヘラケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E20・21 F19	X	
14	杯B	1/3	14.2	4.2	10.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	やや不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部摩擦で調整不明、口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E16	X	
15	杯B	1/4	14.6	4.2	9.0	微砂粒 白色粒子 軟質	灰褐色	やや不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F16・17 G16	X	口縁にやや歪み生焼け
16	杯B	1/3	19.6	4.6	12.6	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部はやや丸みをもつて外方へ立ち上がり開く。高台接地面は外側だけでハの字に踏ん張る。稜腕に近い器形。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E12	X	器面粗い
17	杯B	1/1	17.4	4.6	12.4	極砂粒 精緻	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F18	X	
18	杯B	1/3	14.2	4.5	8.7	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E15	X	

第4章 遺物

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
19	杯B	1/3	15.4	4.9	11.4	極砂粒 精緻	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。口唇部はやや外反する。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E13 F13	X	端正なつくり
20	杯B	1/3	15.3	4.4	11.8	微砂粒 白色粒子 堅緻	明灰褐色	良好	口縁部はやや丸味をもって外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F13	X	
21	高杯	2/3	15.6	6.7	11.6	微砂粒 白色粒子 堅緻	淡灰褐色	良好	全体的に扁平な器形。口縁部は外方へ緩やかに内湾して立ち上がる。口唇部は丸く収める。脚部裾はハの字に開き、脚端部は弱く下方へつまみ出す。	杯部 外：体部は回転ナデ。 内：体部は回転ナデ、底部にハケ脚部 内外面回転ナデ。	E20	X	磨耗 杯部欠損
22	杯A	1/2	10.8	3.6	8.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は中位まで直線的に外方へ立ち上がり、中位からやや内湾して開く。	外：底部回転ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F20	X	
23	杯A	3/5	11.9	3.2	6.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	やや不良	口縁部は中位から外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F20	X	歪み
24	杯A	1/2	11.6	3.0	8.9	微砂粒 白色粒子 堅緻	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：底部ナデツケ。回転ナデ。	F20	X	歪み
25	杯A	1/3	13.0	3.4	8.3	微砂粒 白色粒子 堅緻	淡灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E18	X	底部中央ヘラ切りの際のくぼみあり 重ね焼き痕
26	杯A	2/5	12.1	3.3	8.2	微砂粒 白色粒子 堅緻	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F14 G13	X	重ね焼き痕
27	杯A	1/3	13.0	3.8	7.0	極砂粒 堅緻	暗灰色	良好	口縁部は中位から外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。底部にシッタ	D12	X	
28	杯A	2/5	13.2	2.9	9.4	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は中位から外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E12	X	外面に重ね焼き痕
29	杯A	1/3	13.4	3.0	9.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は中位から外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：底部ナデツケ。回転ナデ。	D15 E15	X	外面に重ね焼き痕
30	杯A	1/4	13.9	3.2	9.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	明灰褐色	良好	口縁部は上位から外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E12	X	器面粗い
31	杯A	1/8	14.0	3.5	10.7	微砂粒 白色粒子 堅緻	青灰色	良好	口縁部は上位から弱く外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E15	X	
32	杯A	1/3	13.2	4.7	9.7	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は上位から弱く外反して開く。底部は丸みをもつ。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E12	X	
33	盤A	1/4	16.4	2.7	11.6	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は丸みをもって短く立ち上がり開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：底部ナデツケ。回転ナデ。	D15 E15 F13	X	歪み
No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
34	広口瓶	1/10	-	-	18.0	極砂粒 精緻	青灰色	良好	肩の張り出した胴部に外反する口縁部が接続する器形。	外：口縁部、肩部はナデ。 内：口縁部ナデ。頸部ナデ。	D15 E15	X	胴部欠損
35	広口壺	1/3	18.0	6.2	-	小砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は短く外方へ伸びる。口唇部は肥厚。	外：口縁部から頸部は回転ナデ、胴部上位タタキ 内：頸部ナデ。胴部上位同心円文	D15 E15	X	
36	鉢	2/5	17.8	-	-	微砂粒 白色粒子 堅緻	明灰褐色	良好	口縁部は短く垂直につまみ出され立ち上がる。胴部上位は大きく肩が張る。	外：胴部上位から下位回転ナデ。 内：胴部上位から下位回転ナデ。	D14-15	X	口縁にやや歪み 生焼け
37	長頸瓶	2/5	-	-	16.8	微砂粒 白色粒子 精緻	暗灰色	良好	胴部上位は大きく肩が張り、胴部中位から底部にかけて直線的に窄まってゆく。本来は、ラッパ状の頸部が接続していたと考えられる。	外：胴部上位から下位回転ナデ。 内：胴部上位から下位回転ナデ。	D15-16 E15-17 F15	X	肩に自然釉 付着。端正なつくり
38	広口鉢	1/10	23.2	-	-	極砂粒 白色粒子 堅緻	明灰色	良好	口縁部は短く垂直に立ち上がる。口唇部は外側へつまみ出されるように肥厚。胴部は球形。	外：口縁部ナデ、胴部上位タタキ後力キメ。 内：口縁部ナデ。胴部上位同心円文をナデ消し。	F14	X	
39	広口壺	1/10	17.2	-	23.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は外反し、口唇部内側端部は弱くつまみ出される。頸部には4条、胴部中位の3条の平行沈線が施される。胴部の肩が張る。	外：口縁部ナデ、胴部上位タタキ。 内：口縁部ナデ。胴部上位同心円文。	D15-16 E12 F13	X	

第1節 土器

I区包含層出土 須恵器 (第34図、図版第15・16)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
40	盤B蓋	1/4	19.3	-	14.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	天井部は平坦気味であり、扁平な器形。口縁部と天井部の稜線はやや不明瞭。口唇部は短く外方へ反る。	外：天井部回転ヘラケズリ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	
41	杯B	2/3	15.5	4.0	11.8	極砂粒 白色粒子 堅緻	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ヘラケズリ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9 D12	X	焼きムラ
42	杯B	2/5	14.1	3.8	10.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部はやや丸味をもって内湾して外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B10	X	高台は潰れている。
43	杯B	1/6	16.1	3.7	12.3	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B10	X	焼きムラ
44	杯A	1/2	15.5	3.2	11.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D14	X	
45	杯A	1/5	14.3	3.1	10.8	微砂粒 白色粒子 堅緻	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	焼きムラ
46	杯A	1/4	12.4	3.1	9.0	極砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	C9	X	焼きムラ
47	杯A	1/8	12.5	3.8	7.5	極砂粒 白色粒子 堅緻	暗青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E40	X	
48	杯A	1/10	11.9	3.2	7.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰褐色	やや不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B13	X	
49	杯A	2/5	12.4	3.6	7.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰黒色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	C15・16	X	
50	杯A	1/10	11.9	3.1	8.8	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D12	X	
51	杯A	3/5	12.5	3.3	9.4	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D24	X	器面が粗い
52	杯A	4/5	14.0	3.0	10.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D14	X	焼きムラ 歪み
53	杯A	1/2	12.6	4.2	8.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部は膨らむ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	自然袖付着 歪み
55	杯A	1/4	11.8	4.0	7.7	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	やや不良	口縁部はわずかに外反して立ち上がり開く。底部はやや丸みをもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	底部に焼き ムラ。
56	杯A	1/4	12.5	-	-	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部は丸みをもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D20	X	歪み 焼きムラ
57	杯A	1/5	14.1	3.1	9.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D12	X	焼きムラ
58	杯A	4/5	14.0	3.9	10.6	微砂粒 白色粒子 堅緻	淡灰色	やや不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸みをもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	内面に炭化 物付着
59	杯A	4/5	12.5	3.0	7.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸みをもつ。	外：底部ヘラ切り。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	焼きムラ
60	杯A	1/5	13.6	3.3	7.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸みをもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	C5	X	
61	杯A	1/8	13.9	-	9.2	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸みをもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D14	X	
62	杯A	1/2	11.8	3.6	9.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸みをもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D20	X	重ね焼き痕
63	杯A	3/5	11.3	3.3	8.4	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや歪む。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D15	X	焼きムラ 歪み
64	高杯	1/10	19.0	-	-	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰白色	良好	扁平な受部に径の太い脚部が付く。受部の口縁部は短く内湾して開く。	外：受部回転ナデ。脚部回転ナデ。 内：受部回転ナデ。	B10	X	磨滅の為調整不明瞭

第4章 遺物

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
65	脚付 長頸壺	3/4	-	-	16.0	小砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	球状の胴部にラップ状の口縁部、頸部が付く。底部にハの字に開く段差をもつ脚部が付く。頸部に2条1組の平行沈線が2組、胴部中位に1組、胴部下位に1組めぐり。	外：口縁部から胴部下位は回転ナデ、脚部は回転ナデ。 内：回転ナデ。	D12	X	脚部は歪む器面粗い自然釉付着
66	長頸瓶	2/3	12.0	-	15.8	微砂粒 白色粒子 精緻	暗灰色	良好	肩部が張る胴部にラップ状の口縁部、頸部が付く。頸部中位に2条の沈線がめぐり。	外：口縁部から肩部は回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9・10	X	口縁部内・外面に釉付着
67	台付 長頸瓶	1/2	-	-	16.2	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	肩部が張る胴部にラップ状の口縁部、頸部が付く。断面T字形となる高台は端部内側が接地し、ハの字に開く。頸部中位に2条の沈線がめぐり。肩部に1条の沈線がめぐり。	外：口縁部から胴部下位は回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	口縁部と頸部の内・外面、肩部外面に自然釉厚く付着
68	脚付 長頸瓶	3/5	-	-	25.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰白色	良好	胴部は扁球状である。胴部中位が大きく張る。脚部はハの字に開き、脚端部内側が接地する。肩部に2条1組の沈線が2組めぐり、沈線の間に列点麻状文がめぐり。胴部中位には2条の平行沈線と波状文がめぐり。	外：肩部から胴部中位は回転ナデ。胴部下位は回転ヘラケズリ。脚部回転ナデ。 内：胴部ナデ。脚部回転ナデ。	B9	X	口縁部、頸部欠損
69	短頸壺	1/5	6.0	5.6	10.8	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は短く直立し、口唇部は丸く収める。肩部は張り胴部は扁球形である。	外：口縁部から胴部下位は回転ナデ。底部ナデ。 内：胴部回転ナデ。	C14・15 D14	X	焼きムラ自然釉付着
70	短頸壺	1/4	-	-	10.8	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	頸部は短く直立し、胴部は扁球形で中位が張る。	外：胴部上位は回転ナデ。胴部下位はヘラケズリ。 内：胴部回転ナデ。	C9・11	X	自然釉付着
71	鉢	1/4	11.5	-	15.4	微砂粒 白色粒子 堅緻	黒褐色	良好	ワイングラス状の胴部に断面長方形の環状把手が付く。胴部中位に3条平行沈線が入る。	外：胴部回転ナデ。 内：胴部回転ナデ。	B22	X	焼きムラ自然釉付着
72	広口鉢	3/5	24.0	17.0	24.7	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は外方へ直立し、口唇部は平坦であり、下端に1条の沈線がめぐり。胴部はやや肩が張り、寸詰まりの形状である。胴部下位に角状の把手が2つ付く。	外：口縁部から胴部下位までは回転ナデ。底部ナデ。 内：回転ナデ。	B10	X	焼きムラ底部に焼台痕
73	横瓶	3/5	12.3	22.6	30.6	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部は外反して開き、口唇部は二重口縁状に厚く整形されている。胴部側面は依形である。	外：口縁部ヨコナデ、胴部タタキ後カキメ。 内：同心円の当て具痕。	A9 B10	X	頸部接合前に胴部内面全体にタタキ両小口面に円板閉塞なし

Ⅱ区包含層出土 須恵器 (第34図、図版15・16)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
54	杯A	5/6	13.3	3.7	4.5	極砂粒 白色粒子 精緻	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F34	X	

Ⅰ区包含層出土 土師器 (第35図、図版16・17)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
74	杯A	1/4	11.9	3.0	6.2	微砂粒 軟質	赤橙褐色	やや不良	口縁部は外方へ直線的に開く。	内外：口縁部ヨコナデ	G14	X	外面に指頭圧痕
75	杯A	1/4	13.4	4.1	7.5	微砂粒 軟質	赤橙褐色	良好	口縁部はやや内湾して開く。底部は丸みをもつ。	内外：口縁部ユビナデ	E12	X	
76	杯A	1/4	14.6	4.1	11.0	微砂粒 軟質	淡灰褐色	不良	口縁部は外方へ直線的に開く。底部はやや膨らむ。	内外：口縁部ヨコナデ	E8	X	器面粗い
77	杯A	4/5	13.8	2.4	8.5	微砂粒 軟質	赤橙褐色	良好	器壁の薄い口縁部がやや内湾して開く。底部は厚く平坦。	外：回転ナデ。底部ナデ。 内：回転ナデ。	E15	X	黒斑
78	杯A	1/2	14.0	3.3	8.8	微砂粒 軟質	淡黄褐色	良好	口縁部はやや内湾して開く。底部は厚くやや歪む。	外：回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 内：回転ナデ。	E16	X	底部調整は粗い
79	杯A	4/5	14.0	3.8	8.0	微砂粒 軟質	淡黄褐色	良好	口縁部は内湾して開く。	外：回転ナデ。底部ナデ。 内：回転ナデ。	F12・13	X	摩耗
80	杯A	1/5	13.2	-	-	微砂粒 軟質	赤橙褐色	良好	口縁部は内湾して開く。口唇部は玉縁状に外方へ屈曲する。	内外：口縁部ヨコナデ	E14	X	
81	杯A	1/5	14.1	-	-	微砂粒 軟質	赤橙褐色	良好	口縁部は内湾して開く。口唇部は玉縁状に外方へ屈曲する。	内外：口縁部回転ナデ	F13・14	X	
82	杯A	3/5	15.8	3.5	10.5	微砂粒 軟質	赤橙褐色	良好	口縁部は内湾して開く。底部は平坦。	外：回転ナデ。底部ヘラケズリ。 内：口縁部回転ナデ。	F13	X	赤彩
83	杯A	1/4	14.0	3.0	8.5	微砂粒 軟質	赤橙褐色	良好	口縁部は外方へ直線的に開く。底部は平坦。	外：回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 内：口縁部回転ナデ。底部暗文	E16 F16	X	赤彩内面底部に朱の暗文
84	椀	1/8	12.0	-	-	微砂粒 軟質	橙褐色	やや不良	口縁部は内湾して上方へ立ち上がる。	内外：口縁部回転ナデ	E15	X	磨耗
85	椀	1/4	15.0	-	-	微砂粒 軟質	淡黄褐色	良好	口縁部は内湾して外方へ立ち上がる。	内外：口縁部ヨコナデ	E15	X	
86	椀	1/6	13.4	-	-	小砂粒 軟質	橙褐色	やや不良	口縁部は外方へ直線的に開く。底が深い。	内外：口縁部回転ナデ	E11	X	
87	高台	2/3	12.0	5.5	4.3	小砂粒 軟質	橙褐色	やや不良	口縁部は内湾して開く。底部は厚く平坦。	外：ナデ、ハケ。底部ヘラ切り後ナデ。 内：調整不明	E3	X	器面粗い

第1節 土器

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
88	甕	1/10	12.6	-	-	微砂粒 白色粒子 堅緻	黄褐色	良好	口縁部はくの字に屈曲し開く。	内外：口縁部ヨコナデ	D5	X	
89	甕	1/10	14.6	-	-	小砂粒 白色粒子 軟質	橙褐色	やや 不良	口縁部は弱く外反し、口唇部は肥厚する。	外：口縁部ヨコナデ。胴部上位ハケ。 内：口縁部ヨコナデ。	E4	X	器面が粗い 摩耗
90	甕	1/3	12.0	-	-	小砂粒 白色粒子 軟質	橙褐色	良好	口縁部は短く強く外反する。胴部中位が張る。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	E2	X	器面が粗い 摩耗
91	甕	1/8	14.0	-	-	小砂粒 白色粒子 軟質	橙褐色	やや 不良	頸部は鋭く屈曲し、短い口唇部上端が上方へわずかに立ち上がる。胴部中位が張る。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	F4	X	器面が粗い 摩耗
92	甕	1/2	16.0	21.5	(17.2)	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 軟質	灰褐色	やや 不良	口縁部はくの字に鋭く屈曲し、口唇部は平坦に収める。胴部中位が張る。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部弱いヘラケズリ。	F21	X	外面タテ半身 と底部内面に 黒斑
93	甕	1/5	16.0	-	17.8	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 堅緻	淡橙褐色	やや 不良	頸部はくの字に鋭く屈曲し、口唇部は幅の狭い口縁帯になるように平坦に収める。胴部中位が張る。	外：口縁部～頸部はヨコナデ。胴部ハケ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	D1・2	X	外面黒斑
94	甕	約2/5	22.8	-	21.4	微砂粒 軟質	橙褐色	良好	頸部はくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部は砲弾形で中位が弱く張る。	外：口縁部～頸部はヨコナデ。胴部中位ハケ。胴部下位ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部上位ハケ。胴部中位～下位ヘラケズリ。	F13・14 G12・13	X	

Ⅱ区包含層出土 土師器 (第35図)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
95	盤A	1/4	12.6	2.2	12.5	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 軟質	橙褐色	良好	口縁部は短く緩やかに内湾する。底部は平坦。	外：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	A20	X	
96	杯A	1/5	18.1	4.5	10.5	微砂粒 白色粒子 軟質	浅黄橙色	良好	口縁部は短く緩やかに内湾する。底部はやや丸みをもつ。	外：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	B10	X	摩耗
97	杯A	1/4	18.4	4.2	8.5	微砂粒 白色粒子 軟質	橙色	不良	口縁部は短く緩やかに内湾する。底部は平坦。	外：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	D13	X	器面が粗い 摩耗
98	杯A	1/5	15.2	4.0	9.0	微砂粒 軟質	浅黄橙色	良好	口縁部は短く緩やかに内湾する。底部は平坦。	外：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	B10	X	
99	杯A	1/5	18.9	3.6	12.0	微砂粒 白色粒子 軟質	橙色	不良	口縁部は内湾して立ち上がる。底部は平坦。	外：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	B10	X	

Ⅲ区包含層出土 土師器 (第35図)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
102	甕	1/10	23.2	-	24.0	微砂粒 白色粒子 赤色粒子 軟質	橙褐色	不良	口縁部はくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	D30	X	器面が粗い 摩耗
103	甕	1/10	33.6	-	39.5	微砂粒 白色粒子 軟質	橙色	不良	頸部はくの字に屈曲し、口唇部は平坦に収めて斜め外方へ向けられる。	外：口縁部ヨコナデ。胴部調整不明 内：口縁部ヨコナデ。胴部調整不明	C25 D25	X	器面が粗い 摩耗

Ⅱ区包含層出土 弥生土器 (第35図、図版第17)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
100	高杯	1/5	17.1	-	-	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 軟質	橙褐色	やや 不良	受部は内湾して立ち上がり、口縁部は外方へ屈曲する。口唇部は短く立ち上がる。	外：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	B6	X002	器面が粗い 摩耗 黒斑 脚部欠損
101	高杯	3/5	-	-	15.8	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 軟質	橙褐色	やや 不良	受部は内湾して立ち上がる。脚部はくの字に開き、脚端部は肥厚する。	受部 外：ナデ。底部ナデ。内：ナデ。 脚部 外：ナデ。底部ナデ。内：ナデ。	C1	X	器面が粗い 摩耗

Ⅰ区遺構出土 須恵器 (第36図、図版第17・18)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	天井径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考
104	杯B蓋	1/1	15.9	3.3	11.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	天井部はやや凹む。器高は高い。ツマミは扁平擬宝珠。口縁部は厚く天井部の稜線は不明瞭。	外：天井部回転ヘラ切り後ナデ。 内：天井部中央ナデツケ。回転ナデ。	D21	P153
105	杯B蓋	2/3	16.6	3.4	11.3	微砂粒 白色粒子 堅緻	淡灰色	良好	天井部はやや丸みをもち、器高は高い。ツマミは扁平擬宝珠。口縁部は直線的に開く。天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラ切り後ナデ。 内：回転ナデ。	F20 F20 E20 F19	SK123 SL2 溝11 SK125
106	杯B蓋	2/3	16.0	3.6	9.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	やや 不良	天井部はやや丸みをもち、器高は高い。ツマミは扁平擬宝珠。口縁部は直線的に開く。天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ナデ。 内：回転ナデ。天井部ナデツケ。	E19 F19 F19	X SL3 SW1
107	杯B蓋	1/3	15.8	-	10.6	微砂粒 白色粒子 精緻	灰色	良好	天井部はやや丸みをもち、器高は高い。口縁部はやや内湾して開く。天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E12 E12	X SB2P2

第4章 遺物

No	器種	残存率	口径	器高	天井径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
108	杯B蓋	4/5	17.2	-	11.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	明灰色	良好	天井部は平坦、器高は高い。口縁部は直線的に開く。天井部の稜線はやや不明瞭。口唇部は下方へ鈍く屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後ナデ。 内：回転ナデ。底部シツク痕。	F19 F19	SK117 X	ツمامミ欠損 摩耗
109	短頸壺蓋	2/3	11.4	4.8	9.3	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	天井部はやや平坦、ツمامミは扁平擬宝珠。器高は高い。口縁部は天井部から屈曲し直線的に開く。天井部の稜線はやや不明瞭。口唇部はやや肥厚する。	外：天井部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F19・20	SL2	歪み
No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
110	杯B	2/3	15.0	5.1	10.3	微砂粒 白色粒子 堅緻	明灰白色	やや不良	口縁部はやや丸味をもって内湾して外方へ立ち上がり開く。底部中央の器壁は厚く膨らみ、高台接地面が安定しない。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F19・21	SL2	摩耗
111	杯B	1/3	14.6	4.2	11.1	極砂粒 白色粒子 堅緻	淡灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F19	SK125	
112	杯B	4/5	12.9	3.9	9.2	極砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F20 F20	X SK122	焼きムラ
113	杯B	2/5	10.2	4.1	6.8	極砂粒 白色粒子 精緻	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E11 F19	X SD10	
114	杯A	2/3	12.7	3.7	9.4	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部はやや外反して立ち上がり開く。底部は歪む。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。底部ナデツケ。		SL2	歪み
115	杯A	1/1	13.0	3.8	9.7	極砂粒 白色粒子 精緻	青灰色	良好	口縁部はやや外反して立ち上がり開く。底部はやや膨らむ。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。底部ナデツケ。		SL2	
116	杯A	2/3	11.4	3.2	7.7	極砂粒 白色粒子 精緻	灰色	良好	口縁部はやや外反して立ち上がり開く。底部は平坦。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F19	SL1	
117	杯A	1/5	13.6	3.5	7.7	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部は平坦。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E18 F18-19	X SL1	自然釉付着
118	杯A	1/4	13.0	3.8	8.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	淡灰色	やや不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部は平坦。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F19 F19 F19 E21	SK117 SK118 X X	
119	杯A	1/1	16.1	4.8	10.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	淡橙褐色	不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部は平坦。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F19	SL1	生焼け
No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
120	壺	1/10	18.6	-	-	極砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部は外反し、口唇部は鈍い三角形に肥厚する。	内外：口縁部回転ナデ		SW1	自然釉付着
121	台付長頸瓶	2/3	-	-	16.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	胴部は扁球形で上位の肩が張る。高台はハの字に踏ん張り、台端面が接地する。	外：肩部から胴部中位は回転ナデ。胴部下位は回転ヘラケズリ。脚部回転ナデ。底部ナデ。 内：胴部回転ナデ。脚部回転ナデ。	D1 E1	SD5 SD5	肩部に自然釉付着 高台歪み
122	台付長頸瓶	2/3	-	-	17.6	微砂粒 白色粒子 精緻	暗青灰色	良好	胴部は扁球形で上位の肩が張る。高台はハの字に踏ん張り、台端面は匙面をもって接地する。	外：胴部中位～下位は回転ナデ。脚部回転ナデ。 内：胴部回転ナデ。脚部回転ナデ。		SW1	頸部欠損 肩部に自然釉付着
123	広口壺	1/1	11.4	19.1	20.2	微砂粒 白色粒子 精緻	青灰色	良好	口縁部は上方に短く立ち上がり、口唇部は外方へ肥厚する。胴部上位の肩が張る。底部が平坦。	外：口縁部～胴部下位は回転ナデ。底部ナデ。 内：回転ナデ。	F19	SK117	内面に自然釉付着
124	甕	1/10	41.2	-	-	微砂粒 白色粒子 堅緻	淡灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ伸びて開く。口唇部は内側に肥厚。口縁部に2条の平行沈線がめぐる。	内外：口縁部回転ナデ	D4	SD3	
125	甕	1/6	-	-	40.2	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	扁球形の胴部は、上位が大きく張る。胴部下位に環状の把手が2つ付く。	外：肩部ナデ。胴部中位から下位はタタキ後カキメ。 内：当て具痕。	F11 F11-12 F14	X SK1 X	

I 区遺構出土遺物 土師器 (第37図、図版18)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
127	甕	1/10	13.9	-	-	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 軟質	橙褐色	やや不良	口縁部は短くくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部中位でやや膨らむ。	外：ナデ。 内：ナデ。	F19 F19	SL1 SK125	摩耗
130	甕	1/10	15.2	-	15.1	微砂粒 白色粒子 堅緻	橙褐色	良好	口縁部はくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部は肩が張らない。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ後ナデ。 内：ヘラケズリ。	F20	SK123	
131	甕	1/5	13.3	-	13.2	微砂粒 白色粒子 堅緻	橙褐色	良好	口縁部は弱くくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部は肩が張らない。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ後ナデ。 内：ナデ。	F19 F20	SK125 SK123	
133	甕	1/10	17.2	-	17.0	微砂粒 堅緻	橙褐色	良好	口縁部は短く外反し、口唇部は丸く収める。胴部中位でやや膨らむ。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ内：胴部上位～中位ヨコハケ。	F20	SK122	内面スス付着
134	甕	1/6	25.0	-	23.8	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 軟質	橙褐色	良好	口縁部はくの字に屈曲し、口唇部は平坦面をもつ。胴部中位でやや膨らむ。	外：口縁部ヨコナデ。胴部上位ハケ。胴部中位ナデ。 内：胴部上位～中位ヘラケズリ。	F19 F10 F14	SK125 SL1 SK94	

第1節 土器

I 区遺構出土遺物 弥生土器 (第37図、図版第18・19)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
126	甕	1/4	14.8	-	14.2	小砂粒 白色粒子 軟質	橙褐色	不良	口縁部は短く屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部上位から下位にかけて窄まる。	外：口縁部ナデ。胴部上位ハケ。内：ハケ後ナデ。	E6 E6 E7 E9	P55 X X X	外面黒斑 外面被熱 器面粗い 摩耗
128	甕	1/4	13.8	18.4	15.6	微砂粒 白色粒子 堅緻	淡褐色	良好	口縁部は短くくの字に屈曲し、口唇部は外方へ小さく折る。胴部中位で膨らみ、底部にかけて窄まる。	外：口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ。底部ハケ。内：ヘラケズリ。	F15	SL1 SK98	器面平滑 外面黒斑
129	甕	1/8	17.2	-	15.8	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 軟質	橙褐色	やや不良	口縁部はゆるやかにくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部は肩が張らない。外：口縁部ナデ。	胴部ハケ後ナデ。底部ハケ。内：ハケ後ナデ。頸部に指頭圧痕。	F6	P61	内面スス付着
132	甕	1/5	14.5	-	16.2	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 堅緻	淡灰褐色	不良	口縁部は短く外反し、口唇部は丸く収める。胴部中位でやや膨らむ。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ後ナデ。内：ハケ後ナデ。	6	P61	外面被熱 黒斑
135	甕	3/4	18.8	25.1	20.0	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 堅緻	橙褐色	良好	頸部は鋭角に屈曲し、口唇部は平坦面をもつ。胴部上位でやや膨らむ。	外：口縁部ヨコナデ。胴部上位ハケ。胴部中位ナデ。胴部下位ハケ。内：口縁部ヨコナデ。胴部上位～中位ヘラケズリ。	F15 F15	SK98 P15	外面被熱、 黒斑 スス付着
136	甕	1/2	22.8	24.3	19.4	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 堅緻	橙褐色	良好	口縁部はくの字に屈曲し、口唇部はやや内湾する。口唇部に刻目文がめぐる。胴部上位がやや膨らむ。底部は窄まり、中央に径5mmの穿孔あり。焼成後穿孔。	外：口縁部タテハケ。胴部上位ヨコハケ。胴部中位タテハケ。内：口縁部ヨコハケ後2条の波	F6	P60	外面被熱、 黒斑 内外面スス付着
137	甕	2/3	20.4	24.7	17.8	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 堅緻	灰黄褐色	良好	口縁部は外反し、口唇部下端に刻目文がめぐる。胴部上位がやや膨らむ。底部は窄まり、中央に凹みをもつ。	外：口縁部タテハケ。胴部上位に櫛形列点文と刺突文がめぐる。胴部中位タテハケ。	D21	SK132	内外面に黒斑 底部被熱 器面粗い
138	甕	1/4	18.1	(19.5)	15.8	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 堅緻	橙褐色	やや不良	口縁部は強く外反し、口唇部は丸く収める。胴部中位がやや膨らむ。底部は窄まり、中央に径10mmの穿孔あり。	外：口縁部タテハケ。胴部ハケ。内：胴部摩耗。	D21	SK132	摩耗 器面粗い 底部被熱
139	壺	2/3	15.0	33.9	24.0	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 堅緻	橙褐色	良好	口縁部は外反し、口唇部は端面をもって整えられる。胴部中位が膨らむ。底部は平底で窄まる。	外：口縁部ナデ。頸部タテハケ。胴部上位に4条1組の沈線が2組めぐり、その間に3条の鋸歯文がめぐる。胴部中位は2条の連続刻目文がめぐる。胴部下位はタテハケ。内：胴部上位ヘラナデ。摩耗。	F6	P62	胴部中位に 黒斑 器面粗い

II 区遺構出土遺物 須恵器 (第38図、図版第19)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	天井径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
140	杯B蓋	1/3	15.4	3.2	7.7	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	天井部は丸みをもつ。口縁部は直線的に伸びる。天井部に高台状ツマミが付く。天井部の稜線は不明瞭。口唇部内側にカエリをもち、丸く収める。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。ツマミ貼付時のナデ。内：回転ナデ。	C3	SD5	稜線の蓋 焼きムラ
141	杯B蓋	2/5	15.8	3.4	11.3	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	天井部はやや丸みをもつ。ツマミは扁平擬宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ナデ。内：回転ナデ。	B9 B9 C9	SK1 SK2 X	自然軸付着
142	杯B蓋	1/3	15.6	3.8	8.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	天井部は平坦気味であり、器高は高い。口縁部は直線的に開く。天井部の稜線は不明瞭。口唇部はやや端面をもって収める。	外：天井部ナデ。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。	A9 B9	SD4 SD4	
143	杯B蓋	3/4	16.8	4.0	8.8	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	天井部は中央はやや凹む。ツマミは扁平擬宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。口縁部と天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラ切り後回転ナデ。内：回転ナデ。	B14	SD5	自然軸付着 端正なつくり
144	杯B蓋	1/5	16.0	3.3	10.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	天井部はやや丸みをもつ。ツマミはボタン状擬宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ鈍く屈曲する。	外：口縁部回転ナデ。内：口縁部回転ナデ。	B14	SD5	
145	杯B蓋	3/4	15.1	2.4	8.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	天井部は中央は凹む。ツマミは扁平擬宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。口縁部と天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ鈍く屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。ツマミ貼付時のナデ。内：回転ナデ。	C3	SD6 NO2	自然軸付着
146	杯B蓋	1/2	17.5	3.4	8.5	極砂粒 白色粒子 精緻	灰色	良好	天井部は平坦気味であり、ツマミは扁平擬宝珠。口縁部は直線的に開く。天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ鈍く屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。ツマミ貼付時のナデ。内：回転ナデ。	A9	SD4	
147	杯B蓋	2/5	14.8	-	9.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	天井部は平坦気味であり、口縁部は直線的に開く。天井部の稜線は不明瞭。口唇部は短く下方へ鈍く屈曲する。	外：天井部回転ヘラ切り後回転ナデ。内：回転ナデ。	C3	SD6 NO8	

第4章 遺物

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
148	杯B	1/3	16.4	4.3	11.0	極砂粒 白色粒子 精緻	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	A9	SD4	
152	杯A	2/5	13.9	4.2	7.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部はやや内湾して外方へ立ち上がり開く。口唇部に浅い匙面をもつ。底部は平坦。	外：底部回転ヘラケズリ後ナデ、ハケ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	C3	SD6 X006 NO9	器面粗い
154	杯A	1/4	11.4	3.9	7.7	微砂粒 白色粒子 堅緻	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや膨らむ。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B14	SD4	
155	杯A	2/3	12.1	4.2	8.5	極砂粒 白色粒子 堅緻	灰褐色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部は膨らむ。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	SK1	
157	杯B	1/5	15.3	3.8	11.0	極砂粒 白色粒子 堅緻	灰褐色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。口唇部は丸く収める。底部は平坦。	外：底部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B10	SD4	高台欠損
No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
159	平瓶	2/3	15.5	-	20.8	極砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	肩が張る扁球形の胴部に大きな口縁部が接合する。口縁部は直線的に外方へ伸びる。口縁部中位と肩部に浅い1条の沈線がめぐる。	外：口縁部回転ナデ。胴部ナデ。 内：回転ナデ。	C3	SD6 X006	肩部中央径4cm円穴 円穴閉塞後に口縁部接合

Ⅲ区遺構出土 須臾器 (第38図、図版第19)

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
149	碗B	2/3	13.0	4.7	7.1	極砂粒 白色粒子 精緻	灰色	良好	口縁部は内湾して外方へ立ち上がり開く。口唇部に浅い匙面をもつ。高台端面はハの字に踏ん張る。	外：底部回転ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F31 G31	SD6 SD8	端正
150	杯A	1/2	14.3	4.6	10.0	微砂粒 白色粒子 軟質	灰黄色	不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや膨らむ。	摩擦のため調整不明。	D28	SD5	器面粗い
151	杯A	1/4	14.2	4.1	9.3	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや膨らむ。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D28 E28	SD5 X II	器面粗い 摩擦

Ⅱ区遺構出土 土師器 (第38図、図版第19・20)

単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	天井径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
153	皿A	1/4	15.8	2.6	6.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	橙色	やや不良	口縁部はやや内湾して開く。口唇部は外方へやや屈曲する。底部は丸みをもつ。	内外：口縁部ユビナデ	B9 B10	SD4 SD4	底部外面摩擦
156	碗A	2/5	11.5	3.9	1.0	小砂粒 白色粒子 堅緻	橙色	良好	口縁部は内湾して開く。口唇部は丸く収める。底部は丸みをもつ。	外：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内：ナデ。	B9	SK2	器面粗い
158	杯A	1/2	17.9	4.2	10.0	微砂粒 白色粒子 堅緻	浅黄橙色	不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。口唇部は丸く収める。底部はやや膨らむ。	外：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内：ナデ。	B9・10	SD4	摩擦

Ⅲ区遺構出土 土師器 (第38図、図版第19・20)

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
160	甕	1/3	20.8	-	26.7	微砂粒 白色粒子 堅緻	橙褐色	良好	口縁部はく字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部は球形で中位が張る。	外：口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。	D28 D31 D28	SD5 SD1 X003 X004	黒班

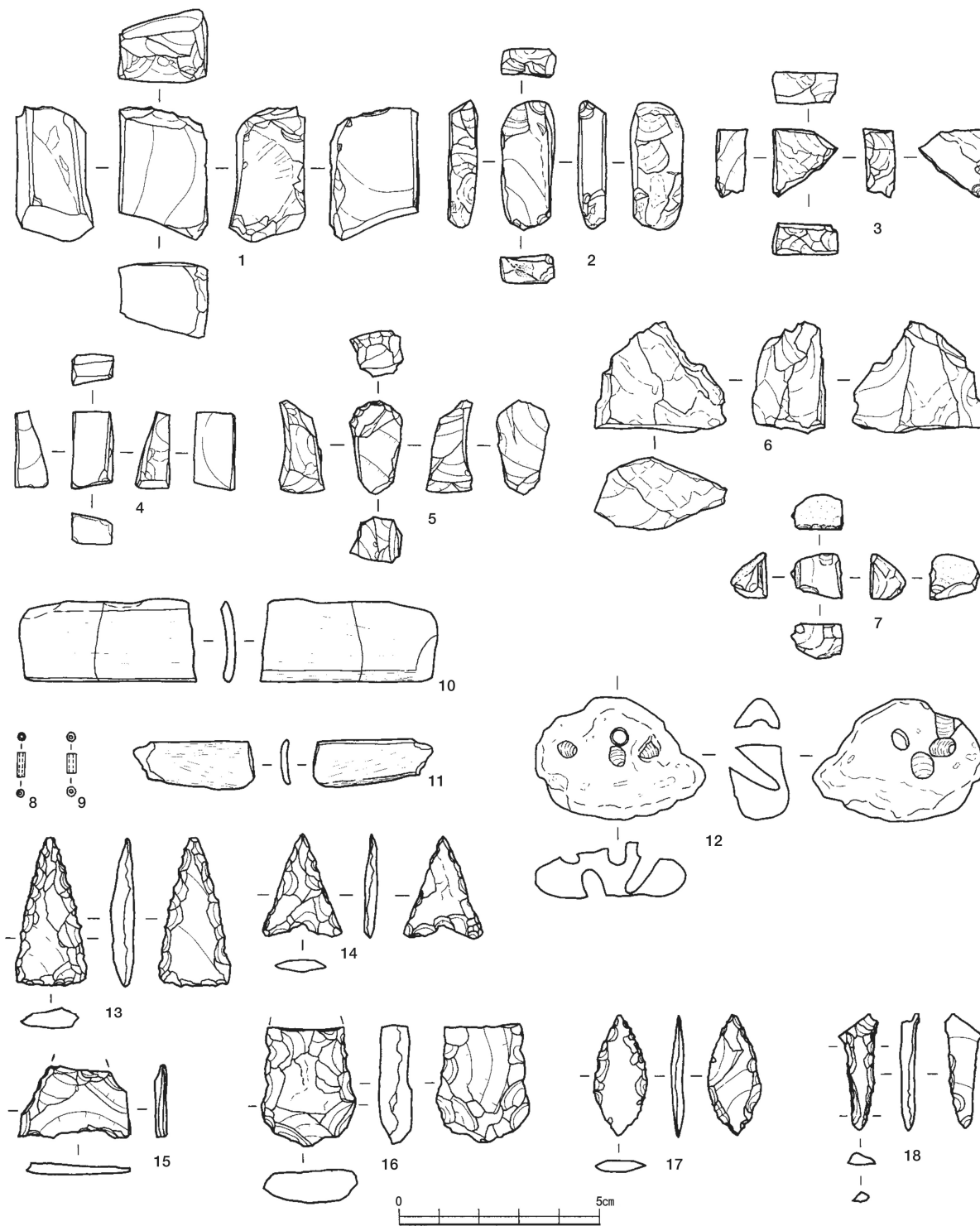
Ⅱ区遺構出土 弥生土器 (第38図、図版第20)

単位はcm

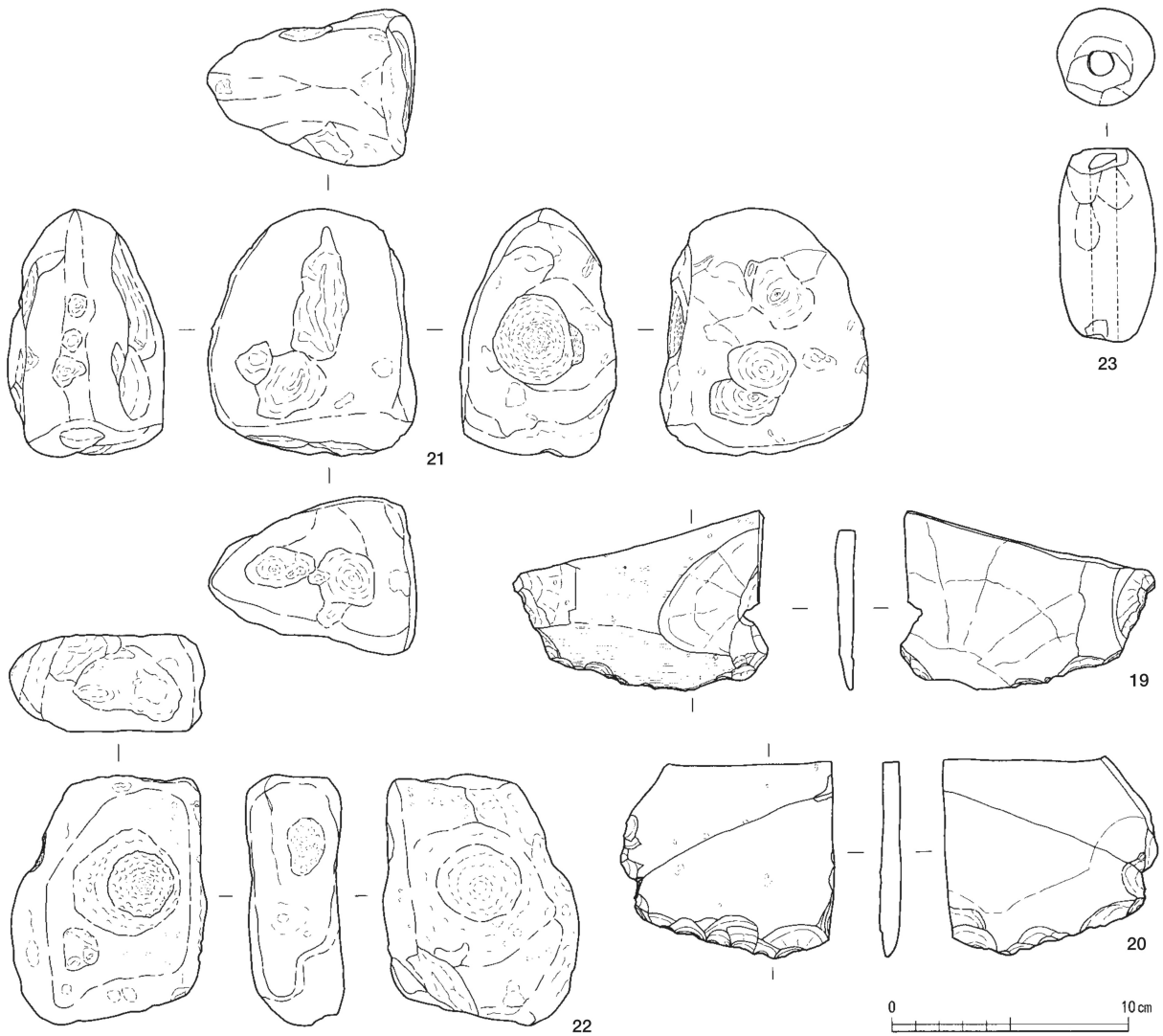
No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
161	壺	1/3	19.4	-	24.5	微砂粒 白色粒子 堅緻	赤橙色	良好	口縁部は大きく外反して開き、口唇部は肥厚する。胴部中位が張る。	調整不明	B3	SD9 NO1 ~3	口縁部・胴部内面黒班 摩擦著しい
162	壺	2/3	14.5	-	18.0	小砂粒 白色粒子 軟質	橙褐色	不良	口縁部は緩やかに外反する。胴部中位でやや膨らむ。口唇部に刻目文がめぐる。頸部から肩部にかけて歯描文が3段入り。その間に麻状文、波状文、半裁同心円文が挿入される。	外：口縁部ハケ。胴部ハケ。 内：口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ。	B23	SK20	器面粗い 内外面黒班
163	甕	2/3	13.7	22.6	14.4	微砂粒 白色粒子 軟質	橙褐色	不良	口縁部は緩やかに外反する。胴部中位でやや膨らむ。底部は窄まる。口唇部に刻目文が間隔をあけてめぐる。	外：口縁部ハケ。胴部上位タテハケ。胴部中位ナメハケ。 内：口縁部から胴部上位ヨコハケ。胴部中位タテハケ。	C8	SK4	器面粗い 内外面黒班 外面被熱
164	甕	1/8	21.4	-	17.8	微砂粒 白色粒子 軟質	橙褐色	不良	口縁部は緩やかに外反する。胴部中位でやや膨らむ。底部は窄まる。胴部上位に歯描文が2段入り、間に波状文が入る。	外：口縁部ハケ。胴部下位ナメハケ。 内：ナデ。	D9	P30	内外面黒班 底部外面被熱
165	甕	2/5	25.8	-	22.6	小砂粒 白色粒子 軟質	橙褐色	不良	口縁部は緩やかに外反する。胴部中位でやや膨らむ。口唇部に刻目文がめぐる。	外：口縁部ハケ。胴部ハケ。 内：頸部ヨコハケ。胴部上位~中位ナデ。	B23	SK20	器面粗い 内外面黒班
166	甕	3/5	23.2	29.8	21.7	小砂粒 白色粒子 軟質	橙褐色	不良	口縁部は緩やかに外反する。胴部上位でやや膨らむ。底部は窄まり、中央に径6mmの穿孔あり。口唇部に刻目文が入る。	外：口縁部ハケ。胴部ハケ。 内：口縁部~頸部ヨコハケ。胴部上位~底部ナデ。	D10	SK6	内外面黒班 底部被熱 焼成後に底部穿孔 器面粗い
167	無頸壺	1/3	9.5	10.9	12.4	小砂粒 白色粒子 軟質	橙褐色	不良	胴部は扁球形で上位の肩が張る。底部は窄まり平底になる。口縁部に2個1組の紐通し用の穿孔が入る。	外：口縁部ハケ。胴部ハケ。 内：ナデ。	C4	SK22	器面粗い 内外面黒班

第2節 その他の遺物 (図版第21図、第39・40図)

I~III区で出土した土器以外のその他の遺物は、弥生時代中期に属すると考えられる玉作り関連遺物1~12、石鏃13~17、石錐18、石庖丁19・20、不明石器21・22、土錘23である。詳細は第3表に記載した。また、I区SW1内の井戸枠については、樹種鑑定をした4点は図版第21に掲載した。



第39図 玉作り関連遺物、石鏃、石錐 (縮尺2:3)



第40図 石庖丁、不明石器、土錘（縮尺2：3）

第3表 その他の遺物観察表

Xは包含層を指す。単位はcm

No	種類	種別	材質	長さ	幅	厚さ	遺存	形態	出土地点
1	玉作り関連遺物	形割未製品	緑色凝灰岩	3.3	2.2	1.8	完形	研磨調整	Ⅱ区/C3 X
2	玉作り関連遺物	形割未製品	緑色凝灰岩	3.2	1.3	0.7	完形	研磨調整	Ⅰ区/E6・7 X
3	玉作り関連遺物	形割未製品	緑色凝灰岩	1.7	1.6	0.8	完形		Ⅰ区 X
4	玉作り関連遺物	形割未製品	緑色凝灰岩	1.9	1.0	0.8	完形	研磨調整	Ⅰ区/E17 X
5	玉作り関連遺物	形割未製品	緑色凝灰岩	2.3	1.3	1.1	完形		Ⅱ区/B8 X
6	玉作り関連遺物	荒割未製品	緑色凝灰岩	2.7	3.2	1.8	完形		Ⅰ区/F7 P38
7	玉作り関連遺物	形割未製品	緑色凝灰岩	1.1	1.2	0.9	下半欠	研磨調整	Ⅱ区/B13 X
8	玉作り関連遺物	管玉	緑色凝灰岩	0.6	0.2	-	完形		Ⅰ区 X
9	玉作り関連遺物	管玉	緑色凝灰岩	0.5	0.2	-	完形		Ⅰ区 X
10	玉作り関連遺物	玉鏃	片岩	2.1	4.2	0.2	右半欠		Ⅰ区/E15 SK99
11	玉作り関連遺物	玉鏃	片岩	1.2	2.9	0.2	右半欠		Ⅰ区/F6 P62
12	玉作り関連遺物	砥石	両面に複数の孔あり	3.0	4.1	1.3	完形		Ⅱ区 X
No	種類	種別	形態	石質	長さ	幅	厚さ	残存	出土地点
13	石器	石鏃	両面調整 三角形平基		3.7	1.8	0.6	完形	Ⅱ区 X
14	石器	石鏃	両面調整 三角形凹基		2.5	2.0	0.3	完形	Ⅱ区 X
15	石器	石鏃	三角形平基		1.8	2.8	0.3	先端欠	Ⅱ区/C23 X
16	石器	石鏃	両面調整 長身凸基		2.9	2.3	0.8	先端欠	Ⅰ区/E8 X
17	石器	石鏃	両面調整 柳葉凸基		3.0	1.3	0.3	完形	Ⅱ区/C3 X
18	石器	石錘			2.8	0.9	0.4	完形	Ⅰ区 X
19	石器	石庖丁			6.7	10.2	0.7	一部欠	Ⅲ区/C25 X
20	石器	石庖丁			8.0	8.8	0.8	右半欠	Ⅲ区/C25 X
21	石器	不明石器			10.2	8.5	6.5	完形	Ⅲ区/E24 SK1
22	石器	不明石器			10.1	7.9	3.9	完形	Ⅱ区/C10 SK7
No	種類	種別	形態	長さ	幅	孔径	残存	出土地点	
23	土製品	土錘	管状		8.1	4.0	1.1	完形	Ⅱ区/C15 X

第5章 まとめ

第1節 遺構・遺物のまとめ

・奈良~平安時代の菅谷烏帽子遺跡

I~Ⅲ区の主要遺構を概観すると、竪穴住居としてはI区のSH1が唯一検出され、SB5に切られている。堆積土から掘立柱建物と時期を隔てないものと考えられる。長方形という特殊な形状から推察すると、家族が一定期間居住するような家屋ではなく、作業小屋のような施設と考えられる。

掘立柱建物は、I~Ⅲ区を通して計16棟になり、形状と規模から、長方形の小型タイプ(SB1・14・15)、中型タイプ(SB8~10・12・13)、大型タイプ(SB2・3)と、方形の小型タイプ(SB6・11)、中型タイプ(SB5・7)、不明(SB16)に分けられる。

掘立柱建物に伴う遺物としては、SB2の柱穴P2から杯B蓋107が出土し、SB12~14・16の柱穴から須恵器、土師器の細片が出土した。他の掘立柱建物において遺物は確認できなかったが、北東から南西の方向に傾きをもって、ほぼ同一方向に建てられていること、柱穴内の堆積土と包含層の土質に顕著な差が見られない点などから、掘立柱建物は、8世紀代を中心に構築された建物群と考えられる。

建物の機能については、SB2・3に見られる長方形の大型タイプは物資を収める倉庫であった可能性が高い。長方形や方形の中型タイプは、家屋のような構造をとっていたかもしれないが、家族が常時居住した生活の場所と想定するには、遺物量が少ない。小型のタイプは、大・中型に付随する簡易的な小屋と考えられる。

建物群が全体が占める面積は、南北50m以内に限られており、掘立柱建物を住居とするには、生活に伴う、同時期の遺物を含む廃棄土坑がSK1・2以外に確認できず、一般生活集落とは異なる佇まいを呈していた。

井戸SW1は、掘立柱建物に伴って構築されたものと考えられ、井戸枠は、良質の分厚いスギ板を蒸籠状に組み上げた入念な作りであった。井戸底から検出された胴部みの長頸瓶122は、祭祀品の可能性があり、公的な管理を受けた遺構と見られる。SL1、SW2、SL2も須恵器を伴い、本来は、SW1のような井戸を構築する目的で掘削しようとしたが、なんらかの事情で構築が中止されたのであろう。

I区SD5とⅡ区SD6は同一の溝であり、I区SD5からは台付長頸瓶121が出土し、Ⅱ区SD6上では大甕が大量に検出された。I区SD5とⅡ区SD6は、掘立柱建物群の主軸と直交して南東から北西に伸び、掘立柱建物群と関連する区画溝と考えられる。

Ⅱ区SD6上の大甕破片は、区画溝が埋没した後に廃棄されたものであるが、溝の方向に沿って廃棄された出土状況から、区画溝を人為的に埋めなければならない事態が生じ、区画溝に付与されていた機能を、祭祀的行為で代償としたのかもしれない。

Ⅱ区SD10、Ⅲ区SD10も同一の溝であり、掘立柱建物群の主軸に沿って南西から北東に伸び、掘立柱建物群を囲む区画溝と考えられる。

以上の遺構は、8世紀代に属し、その様相は、生活の場として、居住を前提とした一般集落というより、ある特定の機能を担って構築された公的な建物群と捉えられる。区画溝を備えていることを積極的に評価すれば、これらの建物群は、奈良時代、当地に置かれていたとされる東大寺領「鳴野荘」の経営に関連する建物群ではないかと有力視される。

・弥生時代の菅谷烏帽子遺跡

弥生時代の遺構は、I区ではP15、P55・60・61・62、SK98・132などが検出されたが、小規模な穴や形状が不明瞭な遺構が多い。遺物は、弥生時代中期の甕が主体となっている。P38、P62、SK99からは、荒割未製品や玉鋸といった玉作り関連遺物が検出され、包含層からは完成品の管玉2点も出土しており、これらも同時期に属するものと捉えられる。

II区では、P30、SK4・6・20・22、SD9などの土坑、溝から、弥生時代中期の甕、壺が検出された。SK6・7とSK19・20は、土坑の検出状況と土器の出土状況が類似しており、各々、近親者の埋葬を意図した土坑墓群の可能性もある。SD9は川によって東側が消失しているが、本来は切り合った土坑群であり、SK20のような土坑墓であった可能性もある。玉作り関連遺物としては、形割未製品と未穿孔の穴をもつ砥石が包含層から検出され、石鏃も含めて中期に属すと見られる。

III区のSK1~3は形状から土坑墓と考えられ、弥生時代中期の土器片を含んでいた。SK1は遺跡中最大の土坑墓であり、底面において土器片に加え、数カ所に径1~2cmの窪みをもつ不明石器1点を含んでいた。同様な不明石器はI区SK7からも出土しており、玉作りに関連する遺物かもしれない。SK2は土器片と炭化材を含んでいた。炭化材は、通常なら木棺が腐朽したもの理解するが、炭化材の検出状況を検討すると、埋葬当初から、遺体の上に数枚の炭化材を用いて覆っていた可能性もある。SK3は小児用の土坑墓であり、SK5は遺物が検出されなかったが、形状から土坑墓と考えられる。III区では玉作り関連遺物はなく、石庖丁2点が検出された。

弥生時代における菅谷烏帽子遺跡の集落は、低湿地に営まれた、典型的な北陸における弥生時代中期の集落として捉えられるが、調査では、居住域や方形周溝墓などは確認されず、散発的に検出された土坑墓のありようから、調査区は、当時の集落の外縁にあたると思われる。

弥生時代中期の集落は、人口増大に起因する様々な軋轢を回避すべく、前代で培った灌漑技術をさらに駆使して、山沿いや微高地上の土地から、河川の側や低湿地に積極的に進出する。

県内の弥生時代中期の集落も、丘陵地や山塊の尾根に墓域を築き、麓を抛り所として展開する集落と、洪水に晒される危険性を孕みながらも、広大な土地を占有して、墓域と集落を同一水平線上に形成する集落に大別され、菅谷烏帽子遺跡や近在する中角遺跡は後者に相当する。

後者の集落は、集落の生業を支える新たな柱として、河川を利用した「物流」という要素を組み込み、集落規模に大小を生じさせる一因となったが、時には、一方が洪水によって短期間で廃絶しても、分裂と集合を繰り返して、自在に新たな集落を形成したと考えられる。

丘陵や山地に祖先の墓域をもつ集団と、洪水で祖先の墓域を失いがちな集団で構成された社会を再構成するためには、より広域にわたって地域を貫く祖霊観、祖神観が希求されはじめ、有力首長が神へ変貌する、来るべき古墳時代への胎動となったに違いない。

第2節 8世紀の越前

・東大寺領鳴野荘について

東南院文書「越前国司解」の天平神護二年(766)十月廿一日付けの記載事項から、福井市菅谷、大瀬、水越、飯塚を含めた一帯は、かつて、鳴野村と呼ばれ、東大寺の初期荘園である鳴野荘が置かれたとされている。

条里坪付は、「西北一条十寒江里」、「最北五条十一桜原社里」「西北六条十一菅江里」、「西北六条十二菅江西里」におよび、「菅江」は現在の地名「菅谷」の起源と考えられる。また「高岸田」の地名は、現在の三郎丸の「高木」「西高木」「東高木」に通じていると考えられる(注1)。

鳴野荘の成立年代は不明であるが、天平勝宝元年(749)四月、東大寺荘園占定のため、寺家野占寺使として僧平榮、造東大寺司史生の生江東人が北陸に派遣され、国司、郡司と協力して荘園の占定をしたことが記され(「同」天平神護二年(766)九月十九日付け事項)、天平宝治四年(759)に、校田駆使の石上奥継が、公田増加を目的として越前に派遣され、寺田を公田にしたとあり(「同」天平神護二年(766)九月廿一日付け事項)、鳴野荘は、その間に成立したと考えられる(注2)。

鳴野荘を開くために、灌漑設備として長さ210丈(広さ6尺)、60丈(広さ6尺)、30丈(広さ6尺)の3つの溝の開削と、樋6隻の設置が計画され、そのために百姓口分田1段160歩、桑原120歩などが損なわれること、用水は足羽堰から引くことが記載されている(「足羽郡司解」(東南院文書)天平神護二年(766)十月十日付け事項)。

鳴野荘から足羽川を挟んだ南側一帯には、東大寺領開田絵図で著名な「道守荘」が展開しているが、道守荘の北半分は、平基、生江臣東人に加えて、越前国医師六人部東人、足羽郡擬主帳槻本老によって野占され、南半分は、生江臣東人が、足羽郡司に任命される天平勝宝末年以前に、開墾して寄進した墾田100町(注3)で成立したとされる。開田絵図から、当時は、足羽川は生江川、日野川は味間川と呼ばれていたことがわかる(注4)。

開田絵図は、東大寺と有力在地首長の墾田や農民の口分田が複雑に入り組み、寺田が侵されることあったため、寺田を整理して、寺領の一円化をはかる目的で作成されたものであり、近接する鳴野荘においても天平神護二年(766)十月に、国司と東大寺で鳴野荘の荘園領域を定めたとある。

それによると、鳴野荘は、荘園の百姓口分田2町2段309歩を改正し、その他2町1反202歩を寺田と相替し、4反206歩を新たに買取して、寺領の一円化を進めたとされ(「越前国司解」(東南院文書)の天平神護二年(766)十月廿一日付け事項)、正確な規模は不明だが、鳴野荘には、少なくとも4町8反357歩の荘田が存在したと考えられる(注5)。

・越前における東大寺領の盛衰

8世紀中頃、都は天平七~九年(735~737)の天然痘の流行や、天平十二年(740)の藤原広嗣の乱など、危機的状況にあり、鎮護国家を目指すべく聖武天皇によって大仏建立事業が発願された。大仏建立は財政的に大きな負荷を与えることとなり、地方における東大寺などの寺社領と貴族領のさらなる拡大を押し進め、対立構造を生むことにつながった。

自らが開発した墾田を私財と認め、税収増加を目論んだ天平十五年(743)の墾田永世私財法の発布は、大土地所有志向を促した。「大国」に等級され、広大な沃野をもつ越前国は、東大寺をはじめとする有力寺社、政権を掌握した藤原仲麻呂、中央官人、在地首長、口分田をもつ農民を巻き込んで開発が押し進められた。

天平宝治二年(757)、淳任天皇が即位し、仲麻呂が^{えみのおしかつ}恵美押勝の名を賜り、翌、天平宝治四年(760)に太政大臣となって政権を完全掌握すると、太政官直属機関である造東大寺司は弱体化を余儀なくされた。仲麻呂は、子息や近縁者を越前国司の^{かみ}守、^{すけ}介に任じて、経営基盤を同じくする東大寺に対し圧力をかけてゆき、巡察使石上奥継を使わし、東大寺の寺田を農民に班給したり、有力在地者の佐味入麻呂(注6)による東大寺の寺田侵害を黙認した。

天平宝治四年(759)、仲麻呂の後楯となっていた光明皇太后の崩御を機に、反仲麻呂派の勢力が強まり、天平宝治八年(764)、仲麻呂の子息である訓儒麻呂が坂上菟田麻呂(田村麻呂の父)に射殺され、孝謙上皇に厩鈴と天皇御璽が戻ると、仲麻呂は越前国へ脱出を謀るが、越前国守にした仲麻呂の子息である辛加知は、既に征討軍によって越前国府で処され、愛発関を封じられた仲麻呂は、石村石楯によって処刑された。

仲麻呂没後、神護景雲二年(768)五月、越前における仲麻呂の所領200町は、奈良の西隆寺に施入され、仲麻呂一族の越前における所領も全て没収されたようである。道守莊開田絵図に名が見える、仲麻呂側であった淳仁天皇の兄である船王や、越前少目上毛野奥麻呂の戸口である田辺来女の所領も同様に没収されたと考えられる。

その後、東大寺領は保護を受けるが、経営方式そのものが、野地の開発を主とし、独自の荘民もなく、賃租や労働力は、郡司に委ねられた形であったため、「道守鎧庄田、雖在条里、本自或荒野、或原沢、更無□寄作人」(「足羽郡庁牒」(東南院文書)天曆五年(951)十月廿三日付け事項)とあるように、10世紀半ばの段階で、東大寺別当僧光智によって派遣された諸庄収納使の要求に対し、足羽郡衙でさえ東大寺領荘園の場所は不明と答えるほど、荘園は荒地と化してしまったようである。鳴野荘に関しては、弘安八年(1235)八月の東大寺領越前國顛倒荘々注進案に「鳴村庄」の名が見えて最後となる。

注

注1. 文11

注2. 文3・4

注3. 福井市小稲津付近の取水口(文3)から2,500丈(7km)の用水を掘削して成立した背景をもつ。近辺の調査例である小稲津遺跡(文11)において、8世紀代の須恵器、墨書土器が出土している。また、小稲津集落東側の水田で「黒麻呂」「押麻呂」などの墨書土器が地元民によって採集されている。

注4. 生江川の生江は、足羽川が福井平野に出る、福井市酒生地域を本拠にした「生江臣」、味間川の味間は、越前市(旧武生市)五分市町、味真野町の地域を本拠地にしたと考えられる「味真公」といった有力豪族の名に通じる。酒生には篠尾廃寺、五分市町には野々宮廃寺といった古代寺院が存在する。

注5. 文4

注6. 野々宮廃寺から西へ3.3km隔てた村国山の北側に位置する村国遺跡(文8)は、越前市村国3丁目を中心に広がる遺跡であり、遺構2E区SD2030 から「佐味」、「佐家」「佐印」「佐」と記した墨書土器が大量に出土している。天平17年(745)佐味朝臣虫麻呂が越前国守となったことと関連するのかもしれない。また、村国の地名は、美濃の豪族である村国連一族とも関連しており、壬申の乱の功臣である村国連雄依の孫である村国連嶋主は越前国守藤原執棹の少掾であった。村国虫麻呂は知家事であり、藤原仲麻呂の子である辛加知の介を務めた。

参考文献

1. 浅野清『奈良時代建築の研究』中央公論美術出版 1969年
2. 石川県小松市教育委員会編『八日市地方遺跡－小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』I 第1分冊(本文・写真図版編) 石川県小松市教育委員会 2003年
3. 小葉田淳 監修『福井県の地名』郷土歴史大事典 日本歴史地名体系第18巻 平凡社 1993年
4. 竹内理三編『角川地名大辞典』18福井県 角川書店 1989年
5. 鶴見泰寿「造東大寺司の活動」『平成12年度秋季特別展 大仏開眼－東大寺の考古学－』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 2000年
6. 寺沢薫 森岡秀人編著『弥生土器の様式と編年』近畿編I 木耳社 1989年
7. 寺沢薫 森岡秀人編著『弥生土器の様式と編年』近畿編II 木耳社 1990年
8. 林憲司『村国遺跡』武生市埋蔵文化財調査報告X 福井県武生市教育委員会 1989年
9. 橋本澄夫「石川県 吉崎・次場遺跡」『探訪弥生の遺跡』畿内・東日本編 有斐閣 1989年
10. 福井市『福井市史』資料編1考古 1990年
11. 福井県『福井県史』通史編1古代・中世 1997年
12. 福井県『図説福井県史』1998年
13. 福井県『福井県史』資料編16下 福井県 条里復原図－解説編－ 1992年
14. 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『小稲津遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第59集 2002年

写真図版



(1) 調査区遠景（南東から）



(2) 調査区遠景（西から）

1

2

図版第二
遺構
I・II区



(1) I区遠景（南から）



(2) II区遠景（南から）



(1) I区遠景 (西から)

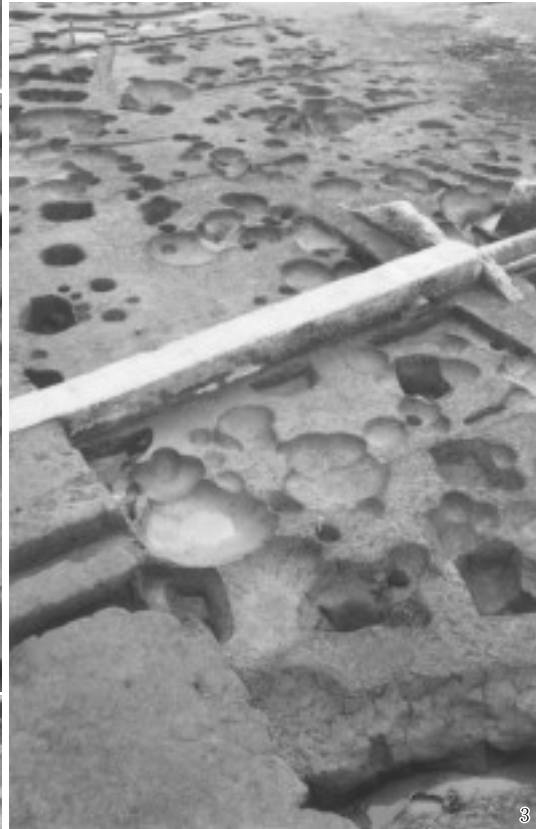
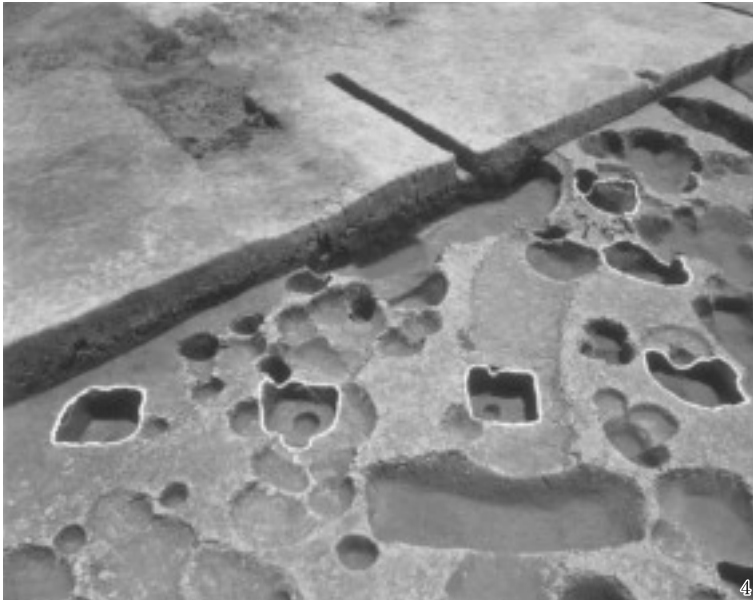
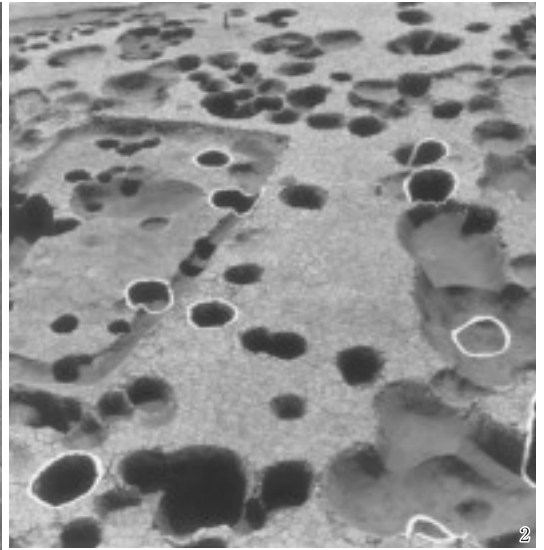


(2) II区遠景 (西から)

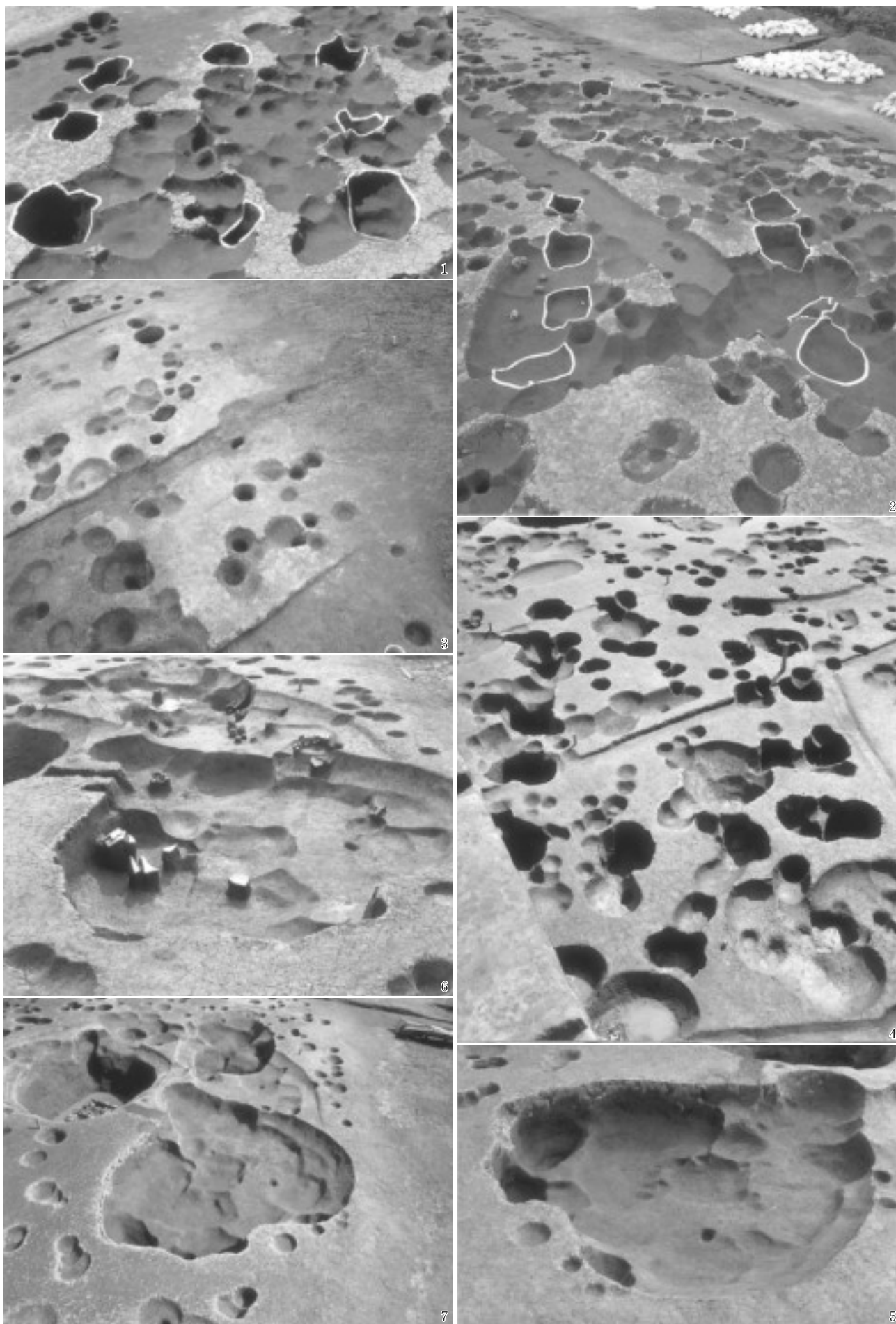
1

2

図版第四
遺構
I区



(1) SH1 (南西から) (2) SB1 (南東から) (3) SB2 (北東から) (4) SB3 (北西から) (5) SB4 (南東から)
(6) SB5 (南東から)



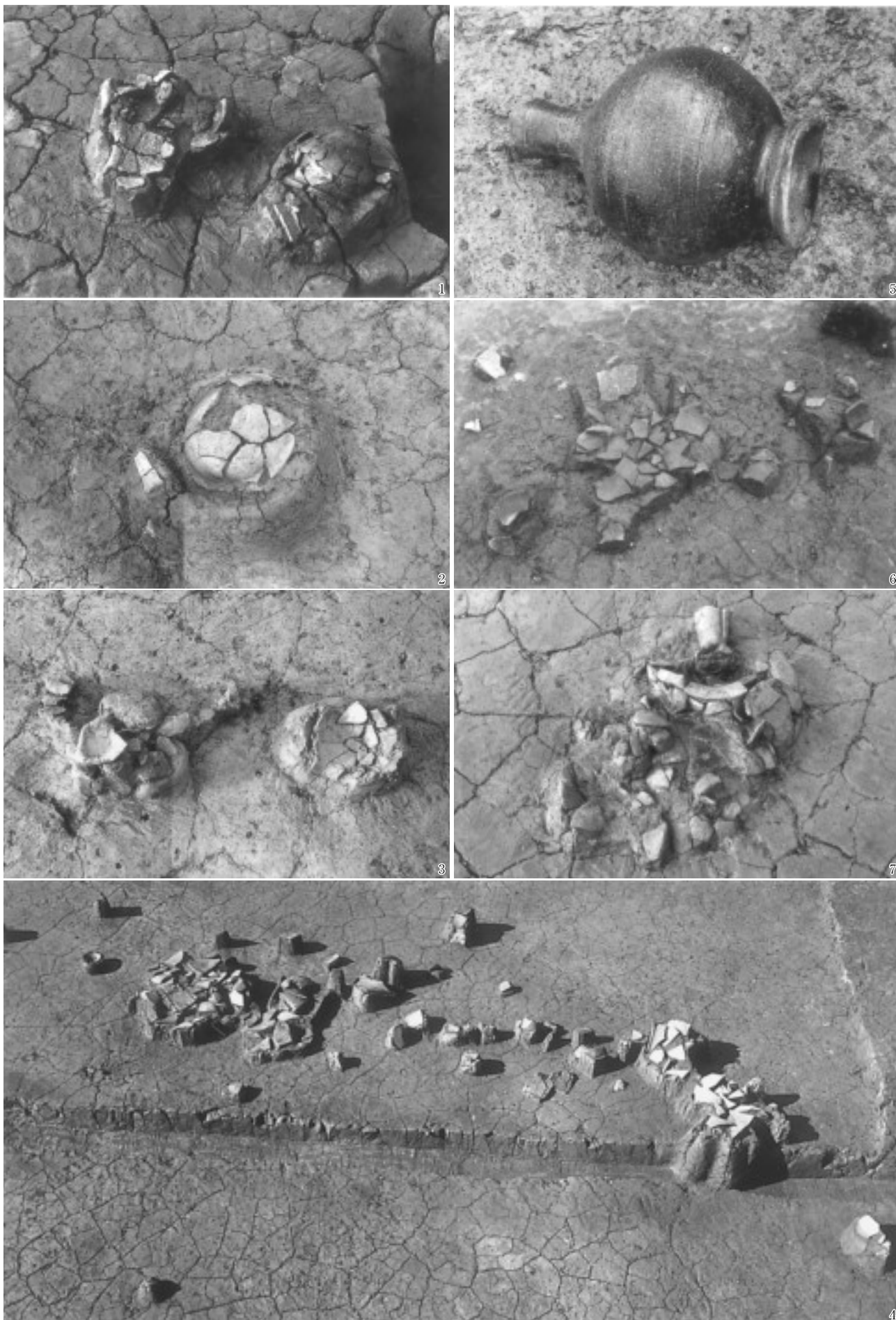
(1) SB6 (南東から) (2) SB7 (南東から) (3) SB8 (北東から) (4) SB9・10 (北東から)
(5) SL1, SW2, SK117・118, SD10 (北東から) (6) SK123 (南西から) (7) SL2, SK123・122 (南西から)



(1) SW1(SL3) (北東から)

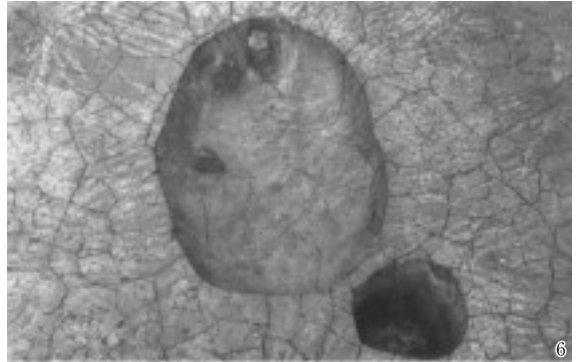
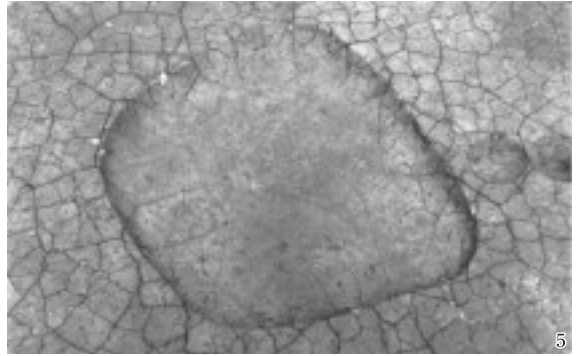
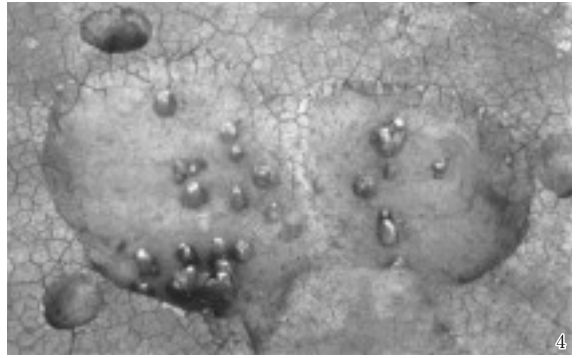


(2) SW1(SL3) 井戸枠解体断面 (北東から)

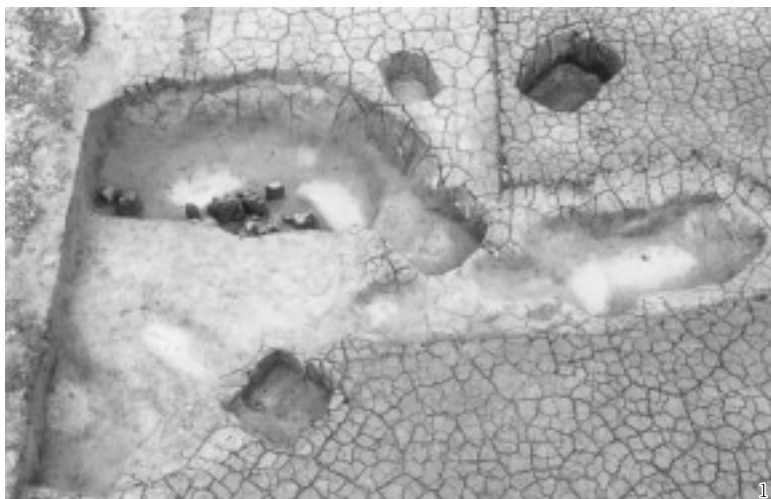


(1) C11 X001遺物群 (南から) (2) SD6上面 X004遺物群 (南から) (3) C3 SD6付近 X006遺物群 (No.10下面) (南から)
(4) C3 SD6付近 X006遺物群 (No.1~9) (南から) (5) D12 P43上面遺物出土状況 (北から) (6) B10包含層遺物 (南から)
(7) C4 SD6付近 X006遺物群 (No.10上面) (南から)

図版第八
遺構
Ⅱ区

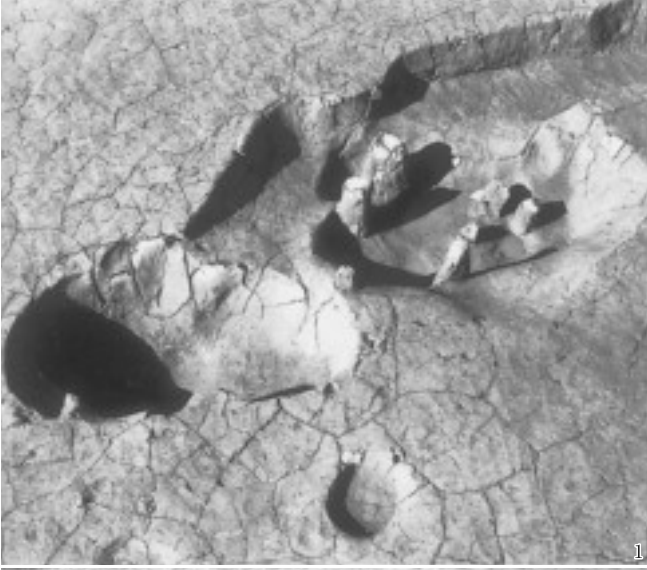


(1) SB3南東辺 (南東から) (2) SB12 (南西から) (3) SB13・14 (南西から) (4) SK1・2 (南から)
(5) SK3 (南から) (6) SK4 (南から)



(1) SK6・7 (南から) (2) SK6 遺物出土状況 (南から) (3) SK19・20 (東から) (4) SK20 遺物出土状況 (南西から)
(5) SD5 (北西から) (6) SD6 (南東から)

図版第一〇 遺構 II 区



(1) SK15 (南から) (2) SK21 (南から) (3) SD6 (南から) (4) SD8 (南から) (5) SD9 (北西から)

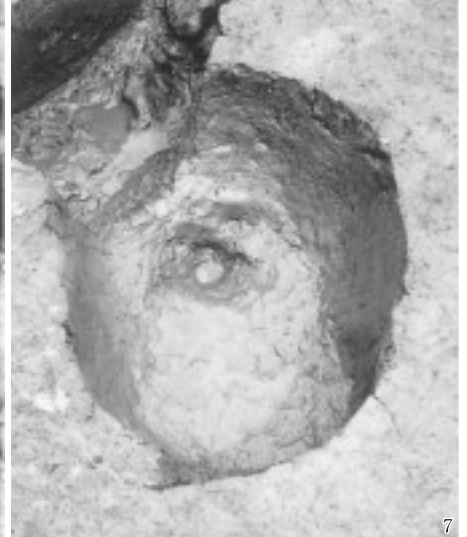
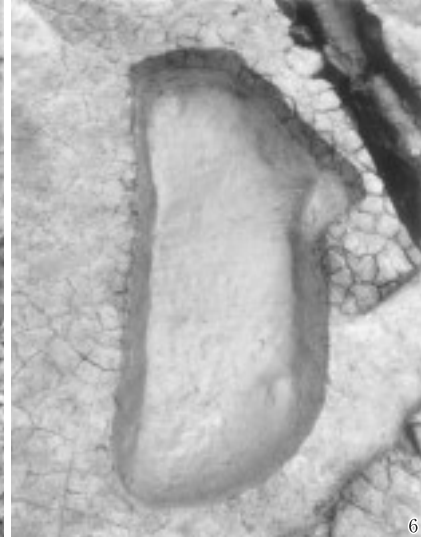
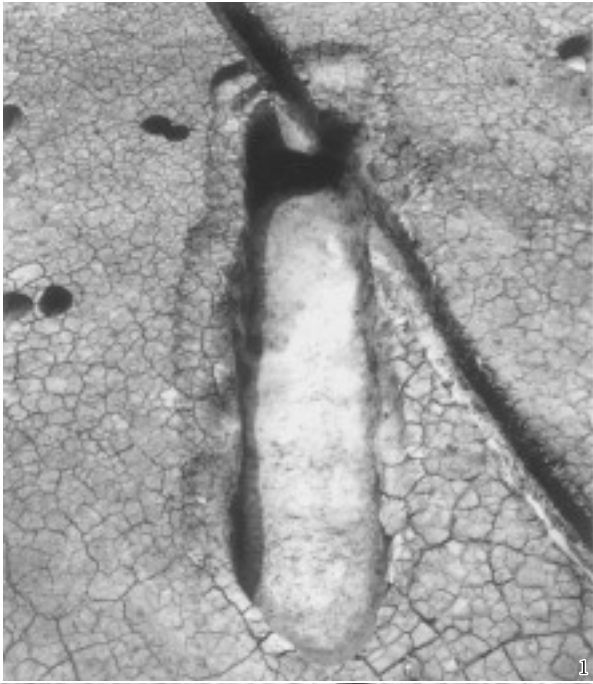


(1) Ⅲ区遠景（南から）

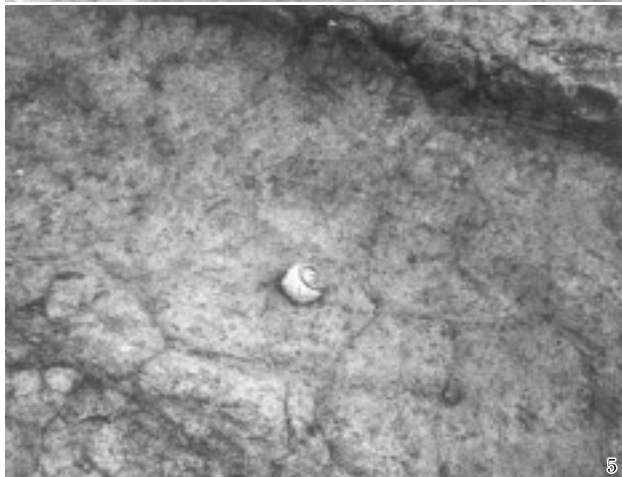


(2) Ⅲ区遠景（北から）

図版第一二 遺構 Ⅲ区

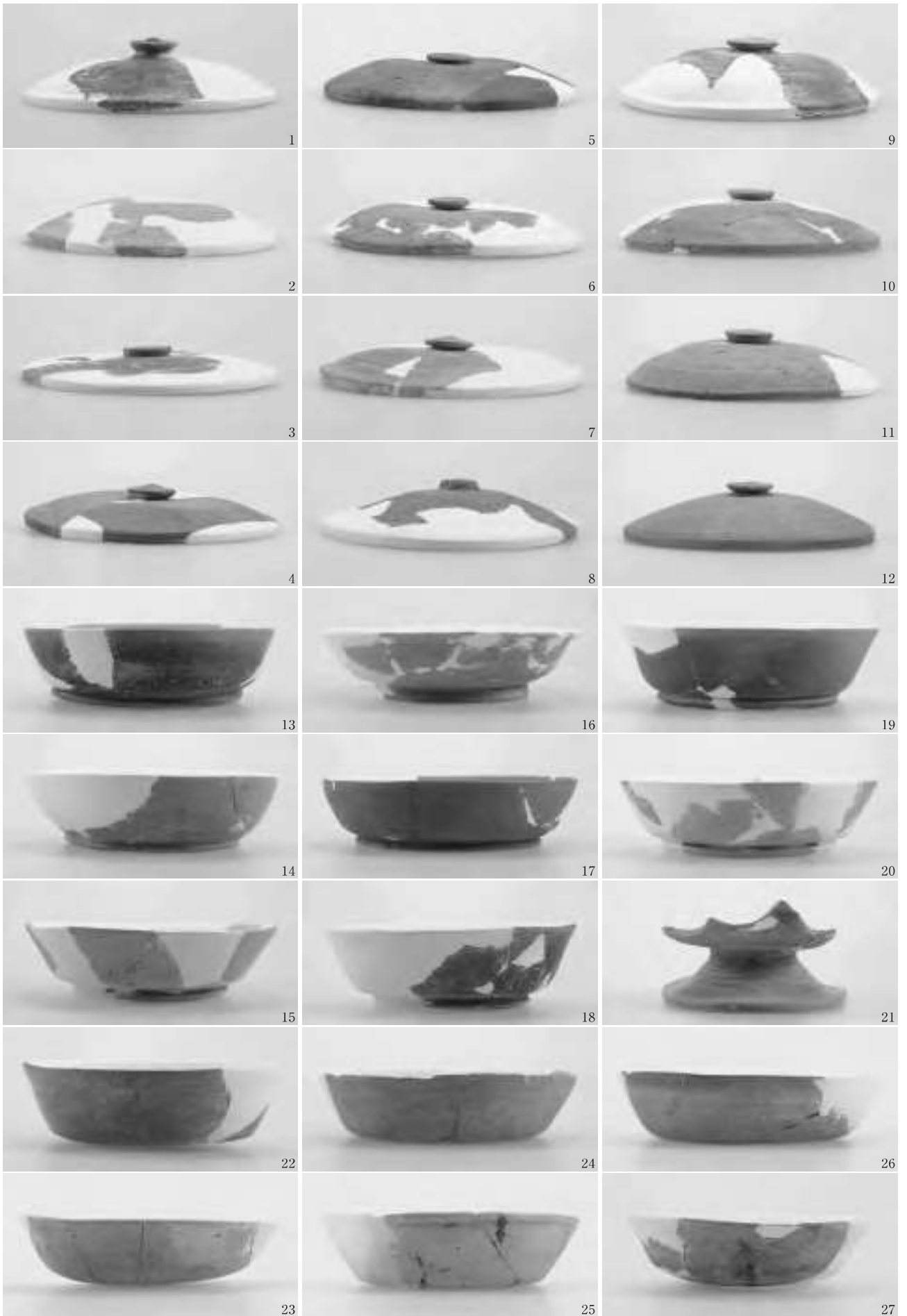


(1) SK1 (南東から) (2) SK1 (南西から) (3) SK2 (南東から) (4) SK2 (南西から) (5) SK3 (南東から)
 (6) SK5 (南西から) (7) SK6 (南から)

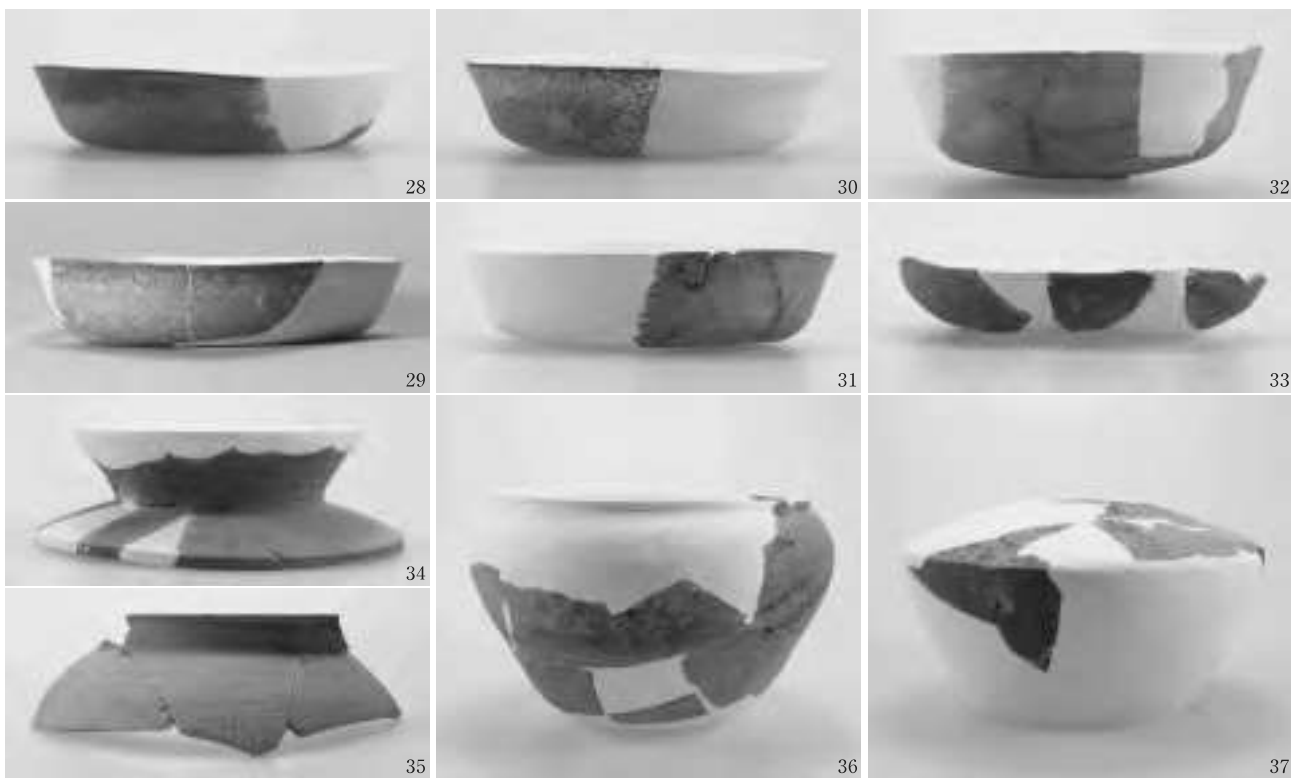


(1) SB15 (P1~5) (南西から) (2) SD5内D28X002 (南から) (3) SD5内D28 X003・004 (南から)
(4) G34 X005 (南から) (5) SD6内 X006 (南から)

图版第一四
遺物
土器



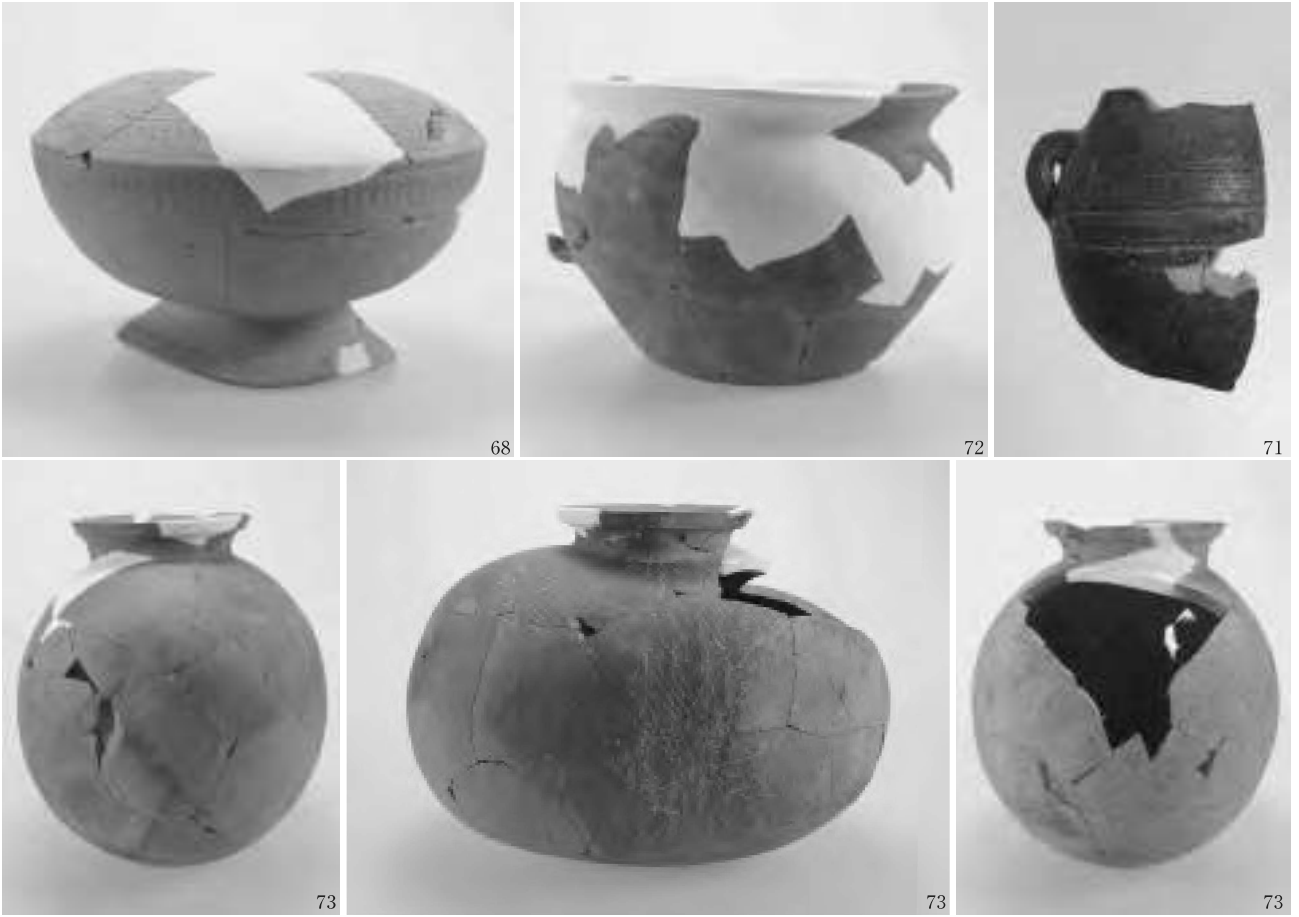
I 区包含層出土遺物 須恵器



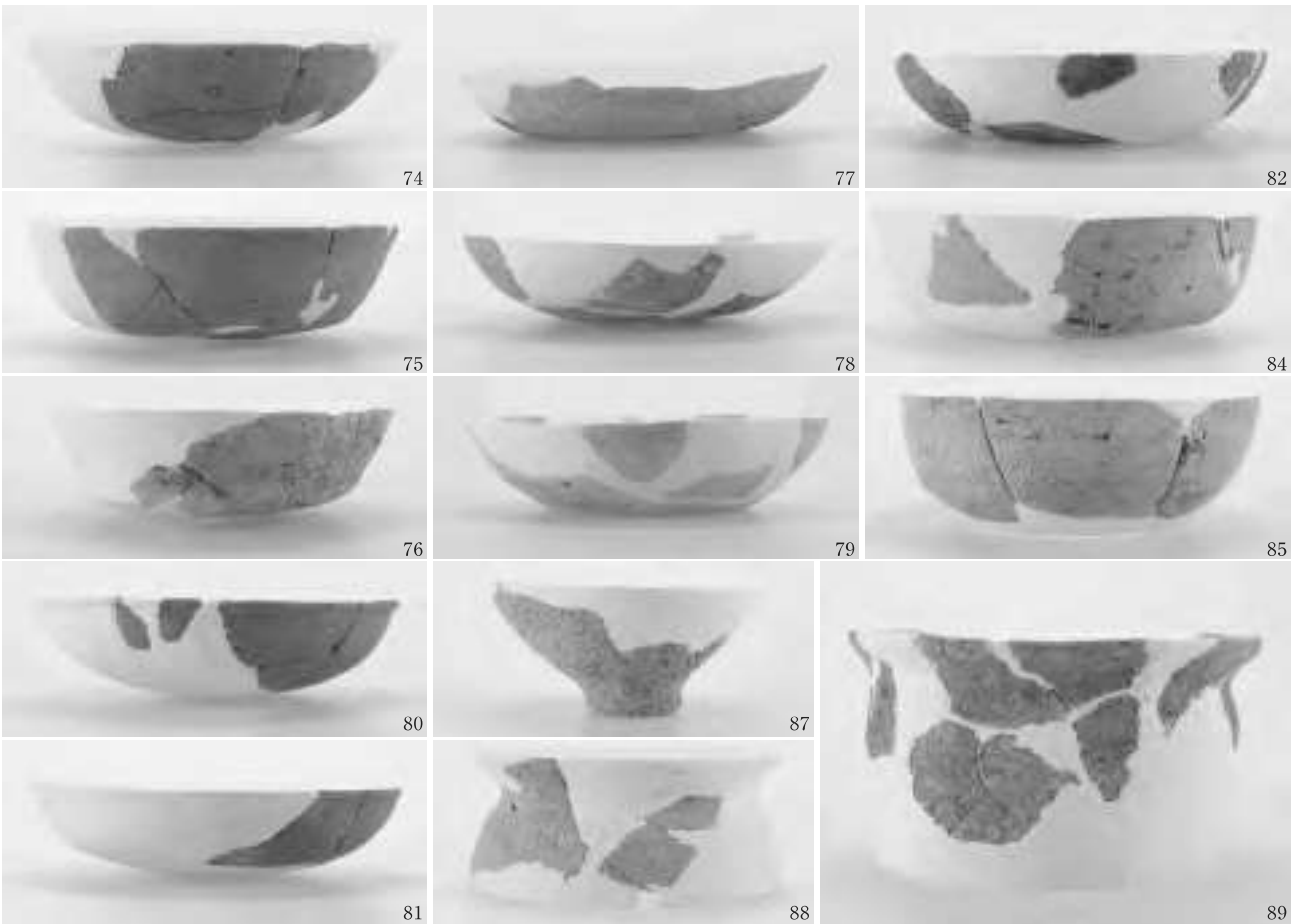
I 区包含層出土遺物 須恵器



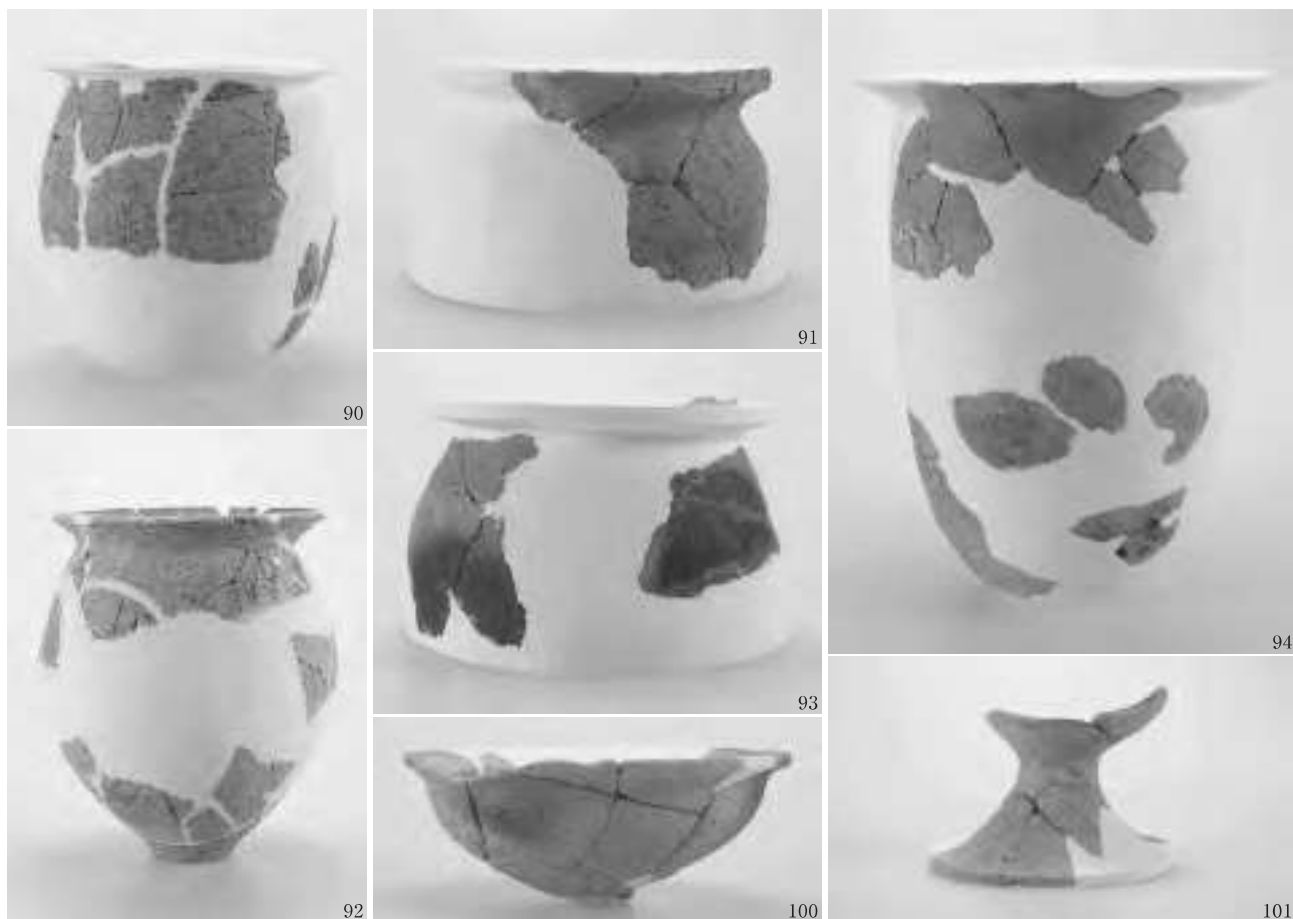
II・III区包含層出土遺物 須恵器



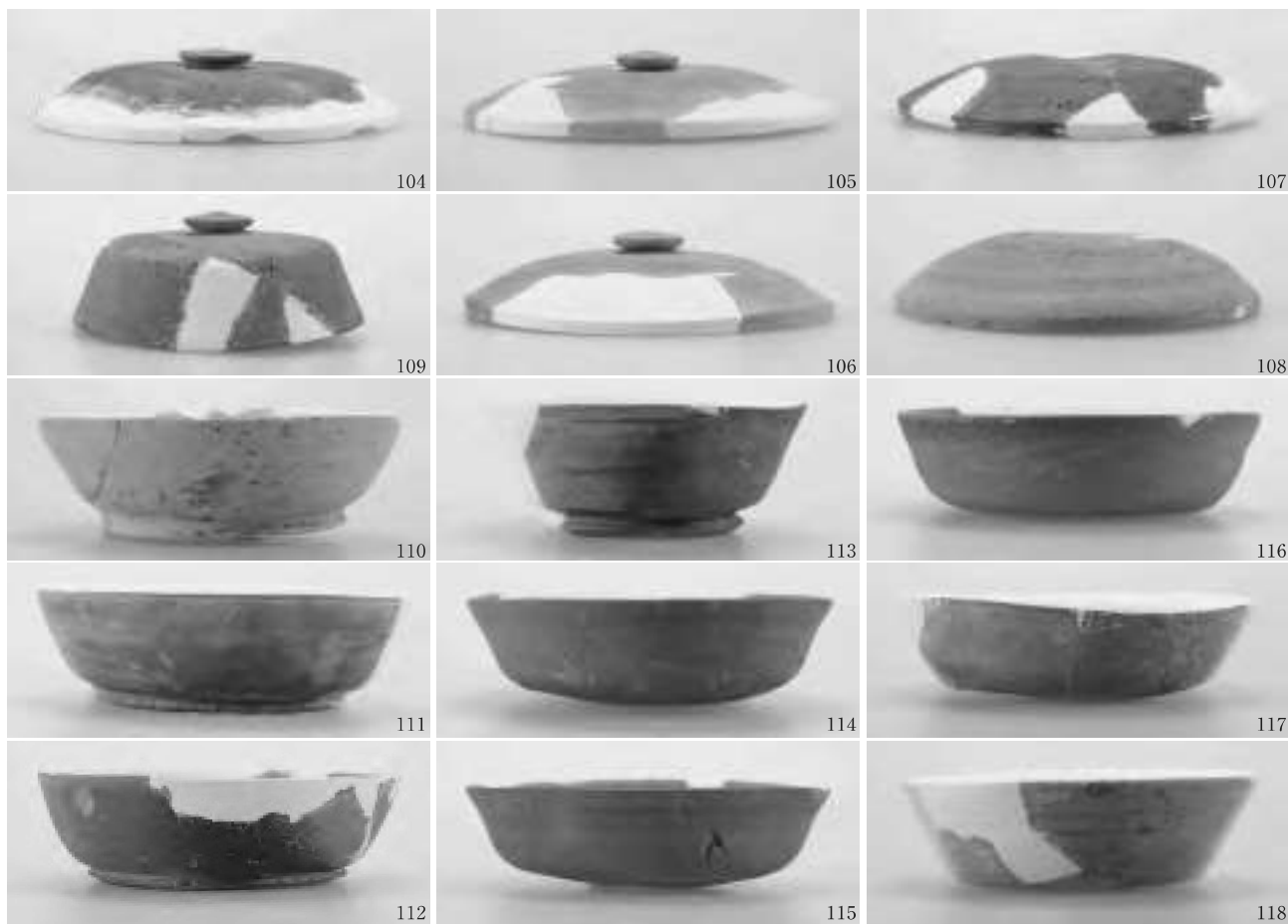
II・III区包含層出土遺物 須恵器



I区包含層出土遺物 土師器

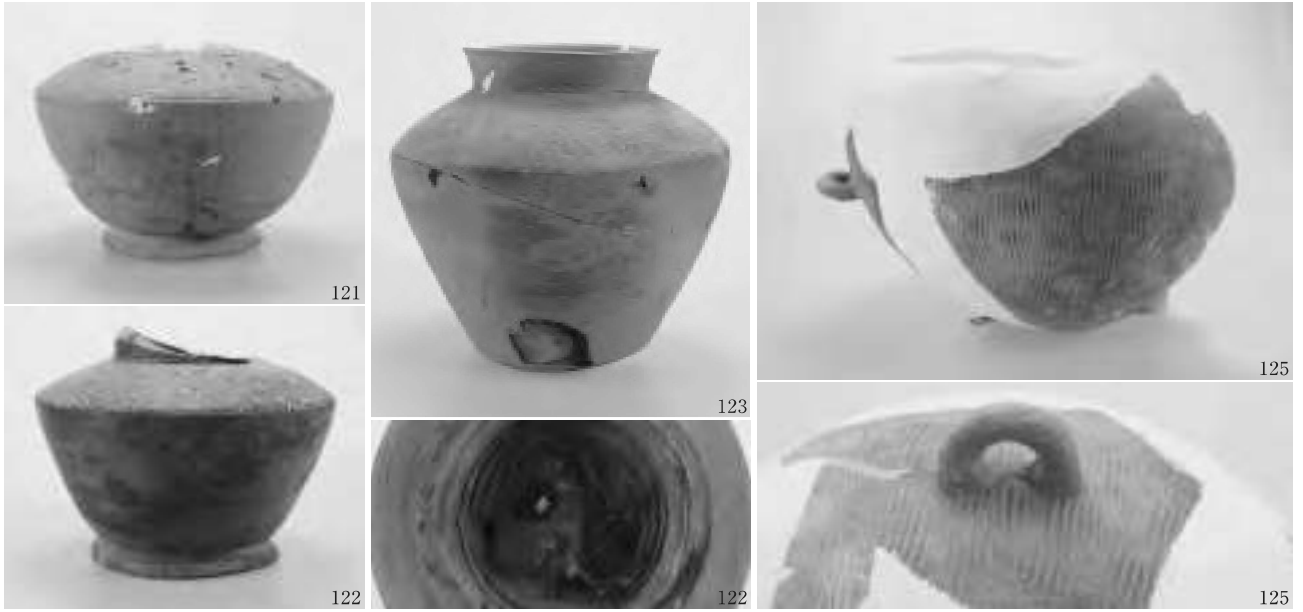


I～Ⅲ区包含層出土遺物 土師器、弥生土器

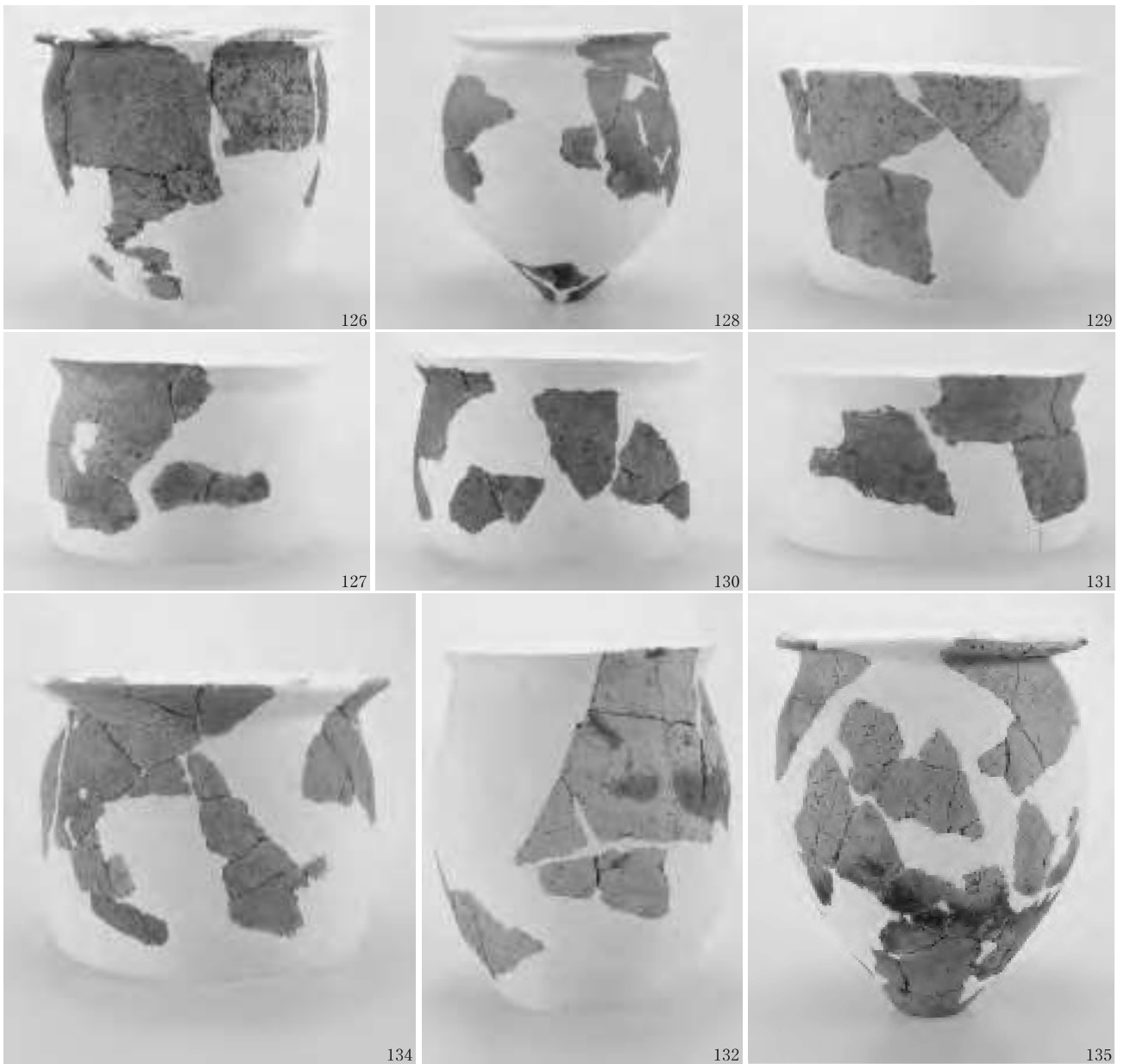


I区遺構出土遺物 須恵器

図版第一八 遺物 土器



I区遺構出土遺物 須恵器



I区遺構出土遺物 土師器、弥生土器



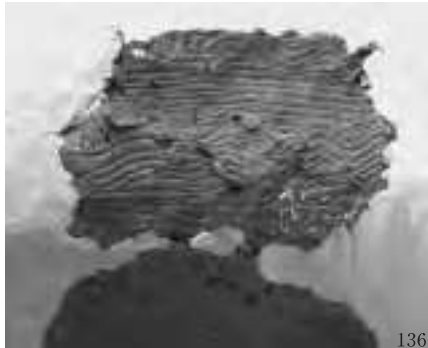
136



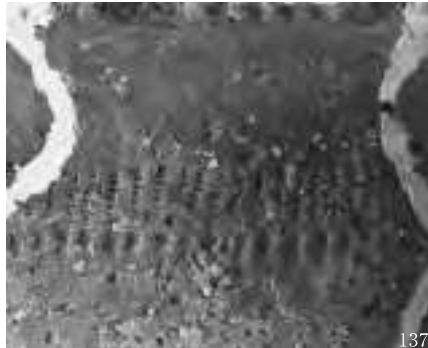
137



138



136



137



139

I 区遺構出土遺物 弥生土器



140



143



146



141



145



147



149



150



158



159



159

II・III区遺構出土遺物 須恵器、土師器



160



161



163



164



162



163



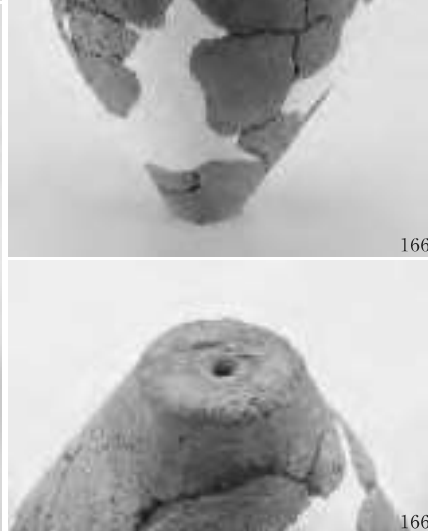
166



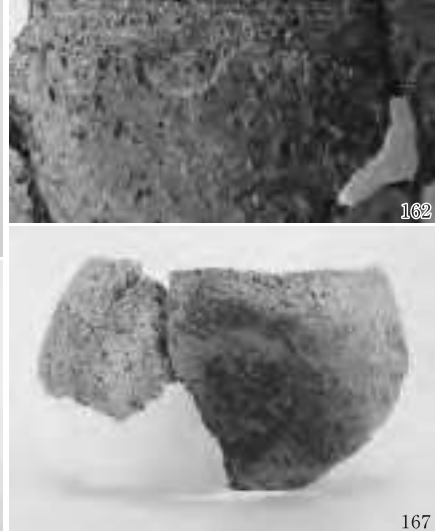
162



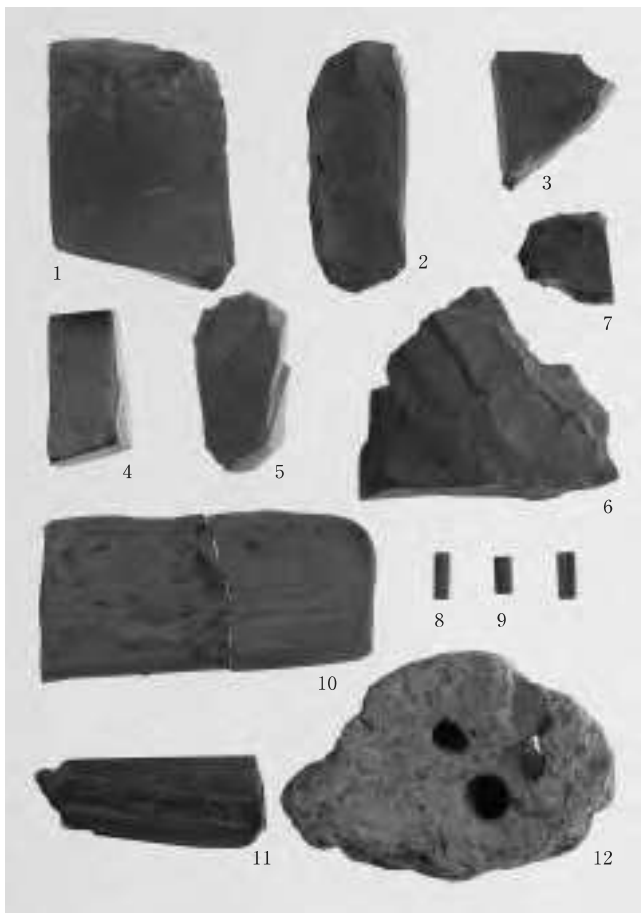
165



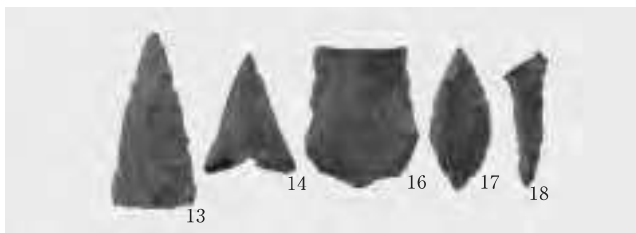
166



167



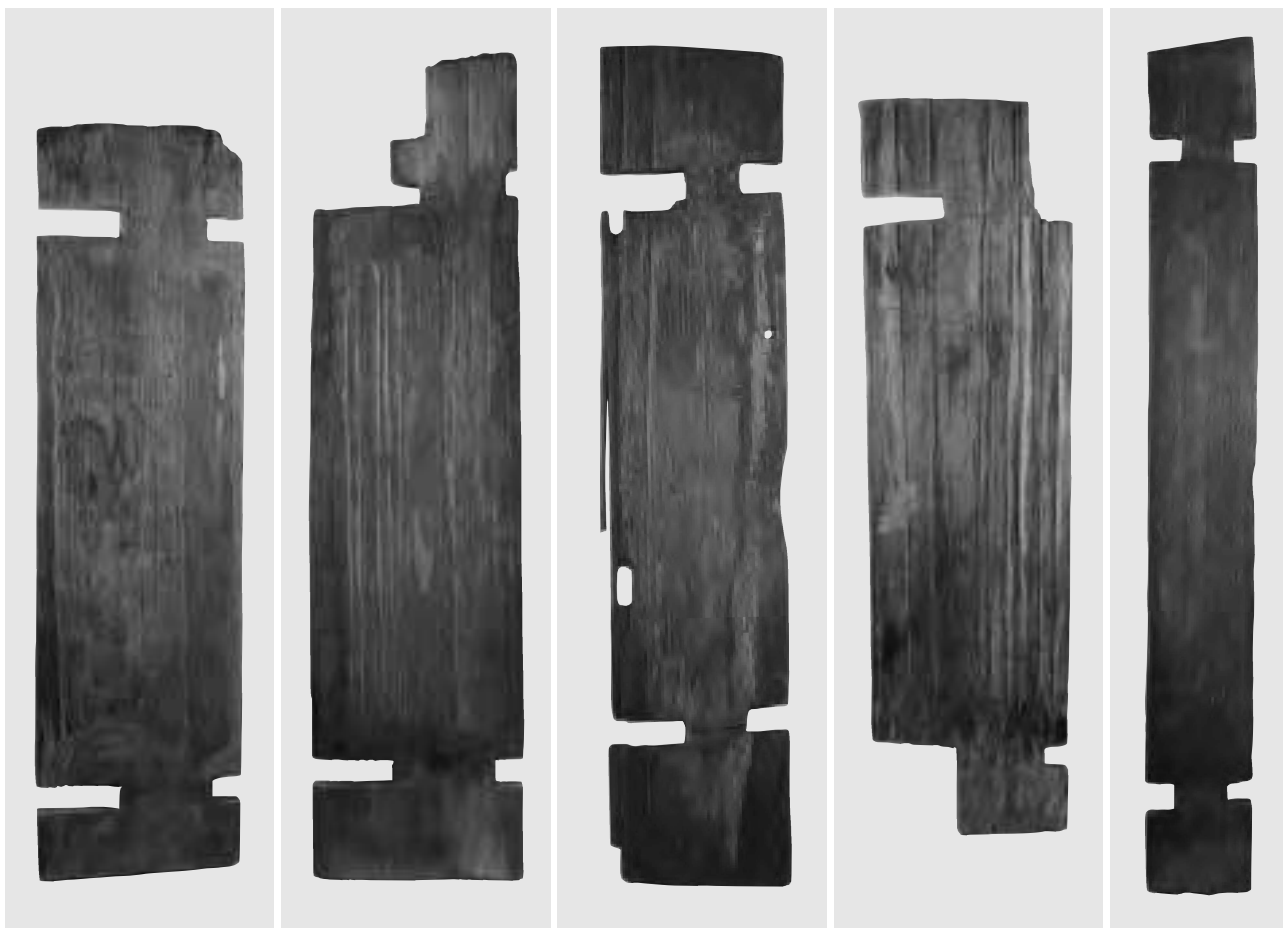
(1) 玉作り関連遺物



(2) 石鏃、石錐



(3) 石庖丁、不明石器、土錘



(4) I区SW1井戸枳板材

報告書抄録

ふりがな	すがやえぼしいせき							
書名	菅谷烏帽子遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	福井県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第104集							
編著者名	鈴木篤英							
編集機関	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒910-2152 福井県福井市安波賀町4-10 TEL 0776-41-3644							
発行年月日	西暦2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すがやえぼしいせき 菅谷烏帽子遺跡	ふくいけんふくいし 福井県福井市 すがや 菅谷	18201	01124	36度 04分 28秒	136度 11分 09秒	19940223～ 19950331	2,900	日野川等河川 改修事業
						20050702～ 20060331	2,200	日野川等河川 改修事業
						20060402～ 20060731	1,200	日野川等河川 改修事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
すがやえぼしいせき 菅谷烏帽子遺跡	集落	弥生時代中期 奈良～平安時代	土坑墓 掘立柱建物 井戸	弥生土器 須恵器 土師器 玉作り関連遺物				
要約	菅谷烏帽子遺跡は、弥生時代中期と奈良～平安時代の複合遺跡である。弥生時代の遺構は土坑墓が検出され、玉作り関連の遺物も検出された。奈良-平安時代の遺構としては、同一方向に主軸をもつ掘立柱建物群や井戸が検出され、8世紀代の須恵器、土師器が検出された。一帯は、東大寺領荘園である鳴野荘の推定地とされ、建物群は鳴野荘に関連する遺構と考えられる。							

福井県埋蔵文化財調査報告 第 104 集

菅谷烏帽子遺跡

－日野川等河川改修事業に伴う調査－

平成21年 3 月23日 印刷

平成21年 3 月31日 発行

発行 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒910-2152 福井市安波賀町4-10

印刷 株式会社 エクシート

〒919-0482 福井県坂井市春江町中庄61-32
